

# App Studio 9.3ガイド

## 目次

App Studio.....	4
このバージョンにおける変更点.....	5
App Studio 9.1ユーザーへの注意事項.....	6
<b>App Studioの理解.....</b>	<b>7</b>
AVE-Mag形式とAVE-Doc形式の理解.....	8
レイアウトファミリーの理解.....	9
App Studioでの発行の理解.....	10
App Studio Publishing Portalの理解.....	11
App Studio Factoryの理解.....	13
ガイドドリーディングの理解.....	14
<b>App Studio作品の作成.....</b>	<b>15</b>
AVE-Mag向けApp Studio作品の作成.....	15
AVE-Doc向けApp Studio作品の作成.....	16
App Studio作品へのインタラクティブ機能の追加.....	16
App Studio作品へのインタラクティブな画像の追加.....	18
App Studioコンテンツへの、画像のスライドショーの追加.....	19
App Studioコンテンツへの、レイアウトのスライドショーの追加.....	23
App Studioコンテンツへのムービーの追加.....	27
App Studioコンテンツへのオーディオの追加.....	29
App Studio作品へのボタンの追加.....	30
App StudioコンテンツへのHTML表示の追加.....	31
App Studioコンテンツへのスクロール可能なレイアウトの追加.....	33
アイテムからのインタラクティブ機能の削除.....	37
<b>インタラクティブ機能のアクションの使用.....</b>	<b>37</b>
コンテンツのインデックスを変更アクションの作成.....	38
ウェブに移動アクションの作成.....	38
ページに移動アクションの作成.....	39
ポップアップの作成.....	39
全画面表示アクションの作成.....	40
再生、一時停止、停止、再生/停止アクションの作成.....	41
<b>ページスタックの作成.....</b>	<b>41</b>
<b>2種類の表示方向の使用.....</b>	<b>42</b>
表示方向間でのコンテンツの同期.....	43
コンテンツページの設定.....	43

デジタルパブリッシングアセットの使用状況の確認.....	43
App Studioコンテンツの書き出し.....	44
App Studioコンテンツの書き出しオプションの設定.....	45
書き出したApp Studioコンテンツのリソースの置き換え.....	47
Quark App Studio Issue Previewerのインストール.....	48
App Studio作品のテスト.....	49
<b>App Studioアプリの作成.....</b>	<b>52</b>
App Studioパブリッシングポータルでのデバイスの登録.....	52
Quark App Studio Issue Previewerでの登録.....	52
App Studioパブリッシングポータルでの登録.....	53
<b>App Studioアプリの作成.....</b>	<b>53</b>
AppleへのApp Studioアプリの申請準備.....	53
App Studio Factoryでのアプリの作成.....	61
App Studioアプリテンプレートライセンスの購入.....	63
App Studio Factoryでのアプリの書き出し.....	64
<b>App Studioアプリのテスト.....</b>	<b>64</b>
iPadへのApp Studioアプリのインストール.....	65
iOS SimulatorでのApp Studioアプリのテスト.....	65
<b>App Studio作品の管理.....</b>	<b>66</b>
App Studioパブリッシングポータルのアカウントの作成.....	66
App Studioアプリの登録.....	66
App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成 .....	68
App Studioイシューライセンスの購入.....	69
ウェブサーバーへのApp Studio作品のアップロード.....	69
App Studioコンテンツの発行.....	70
アプリ内での購入の設定.....	71
新規アプリ内購入の追加.....	73
自動継続型購読の設定.....	73
App Studio商品の作成.....	74
App Studioアプリ証明書のダウンロード.....	75
<b>Appleへのアプリの申請.....</b>	<b>76</b>
<b>法律上の注記.....</b>	<b>77</b>

# App Studio

App Studio機能を使用すると、iPad®向けのカスタマイズしたアプリを作成し、Apple® App Storeを通じてそのアプリを配布できます。また、その後、そのアプリから顧客が購入およびダウンロード可能なコンテンツを作成および発行できます。

- ➡ Windows用のApp Studioでは、Windows XP用の.NET Framework 3.5 SP1が必要です。App Studioのすべてのエディションで、最新のFlashプラグインが必要です。

# このバージョンにおける変更点

「[App Studioでの発行の理解](#)」に、2種類の新しい概要図が追加されました。

iOS SimulatorでApp Studio Issue Previewerを起動する手順が、Xcode 4.3向けに更新されました。詳細は、「[Quark App Studio Issue Previewerのインストール](#)」を参照してください。

各アプリのアイコンをApp Studio Factoryに手動で追加することが必要になりました。AVE証明書にドラッグした後にアイコンが自動的に表示される場合でも、手動で追加する必要があります。

アプリ内課金を使用するアプリをAppleの審査に申請する前に、アプリ内購入を使用する商品を**In Review（審査中）**に設定することが必要になりました。詳細は、「[新規アプリ内購入の追加](#)」を参照してください。

Appleの規約が変更されたことにより、App StudioコンテンツでConsumable（消費型）のアプリ内購入は使用できなくなりました。詳細は、「[アプリ内での購入の設定](#)」を参照してください。

顧客が購読権を購入した後、すぐにタイトルの最新コンテンツをダウンロードできるようになりました。詳細は、「[App Studio商品の作成](#)」を参照してください。

# App Studio 9.1ユーザーへの注意事項

iCloudに関連するAppleのポリシー変更により、App Studio factory 9.1で非埋め込みコンテンツを使用してアプリを作成した場合は、App Studio 9.1.2でそのアプリを再ビルドする必要があります。また、再ビルドしたアプリを新しいバージョンとしてAppleに申請する必要があります。

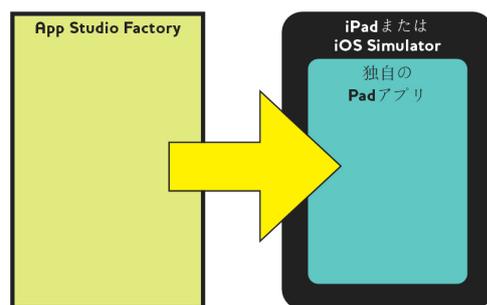
Appleから届いた電子メールに、アプリのDocumentsフォルダに大量のデータが格納されているため、そのデータをアプリケーションバンドル、キャッシュディレクトリ、または一時ディレクトリへ格納するように記載されている場合は、App Studio 9.1.2でアプリを再ビルドすることによって、この問題が修正されます。

# App Studioの理解

App Studioの機能は、複数の要素で構成されています。

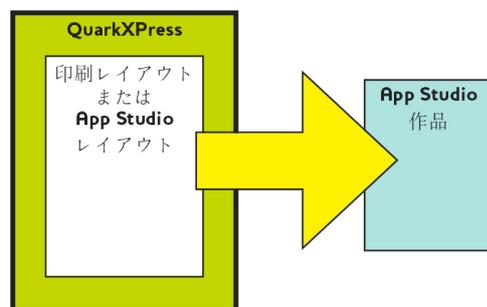
App Studioのソリューションには、下記の2つの要素があります。

- App Studioアプリは、App Studio FactoryというアプリケーションまたはApp Studio Frameworkで作成するアプリです（App Studio FactoryはQuarkXPressに同梱されています。独自のApp Studioアプリを開発する場合は、App Studio Frameworkのライセンスを入手できます）。App Studioアプリを作成およびテストした後、Apple App Storeにそのアプリを申請できます。アプリが承認されると、App Storeで顧客がそのアプリを入手できるようになります。



App Studio Factoryを使用して独自のiPad用アプリを作成できます。

- App Studio作品は、デジタル版の書籍や雑誌です。QuarkXPressでApp Studio作品を作成して書き出しできます。



QuarkXPressを使用してApp Studio作品を作成できます。

ビジネスモデルに関係なく、これらの2つのコンポーネントをそれぞれ作成する必要があります。顧客は、App Studioアプリを使用してApp Studio作品を表示します。また、Quark App Studio Issue PreviewerというアプリでApp Studio作品を表示およびテストできます。Quark App Studio Issue PreviewerはApple App Storeから入手できま

## APP STUDIOの理解

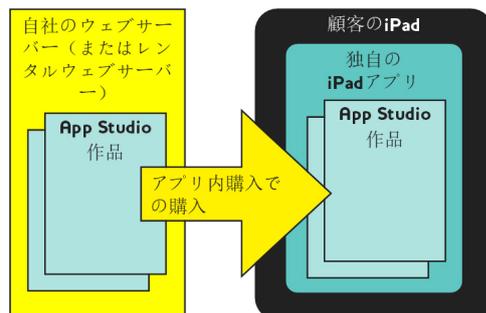
す。Mac OSコンピュータで、iOS Simulatorを使用してこのアプリを実行することもできます。



App Studio作品は、独自のアプリまたはQuark App Studio Issue Previewerで表示できます。

アプリと作品を作成したら、ウェブサーバーで作品を入手できるようにして、Appleのデベロッパー向けウェブサイトでは各作品のアプリ内での購入を設定し、Apple App Storeにアプリを申請できます。

アプリとそのコンテンツに対してAppleの承認が得られたら、顧客は、Apple StoreからApp Studioアプリをダウンロードして、そのアプリを使用してApple Store作品を閲覧、購入、表示できます。独自の電子商取引ソリューションを設定する必要はありません。作品の購入から得られた売上は、Appleのアプリ内課金機能を通じて自動的に自分のアカウントに入金されます。



顧客は、独自アプリ内から作品を購入できます。顧客が作品を購入すると、作品は自社のウェブサーバー (またはレンタルウェブサーバー) から顧客のiPadにダウンロードされます。

App Studio作品の発行の仕組みの詳細は、「[App Studioでの発行の理解](#)」を参照してください。

## AVE-Mag形式とAVE-Doc形式の理解

App Studio作品は、下記の2つの形式のいずれかで作成できます。

- **AVE-Mag**形式は、スクロール可能なレイアウトや、横方向用と縦方向用の異なるレイアウトに対応しています。ただし、スプレッド表示には対応していません。また、ズーム機能にも対応していません。この形式は、最初からレイアウトを作成してiPadで表示する場合に最適です。
- **AVE-Doc**形式は、スプレッド表示やズーム機能に対応していますが、スクロール可能なレイアウトや、さまざまな表示方向のレイアウトには対応していません。この形式は、既存のレイアウトを変換してiPadで表示する場合に最適です。

下記の2種類のレイアウトからApp Studio作品を書き出すことができます。

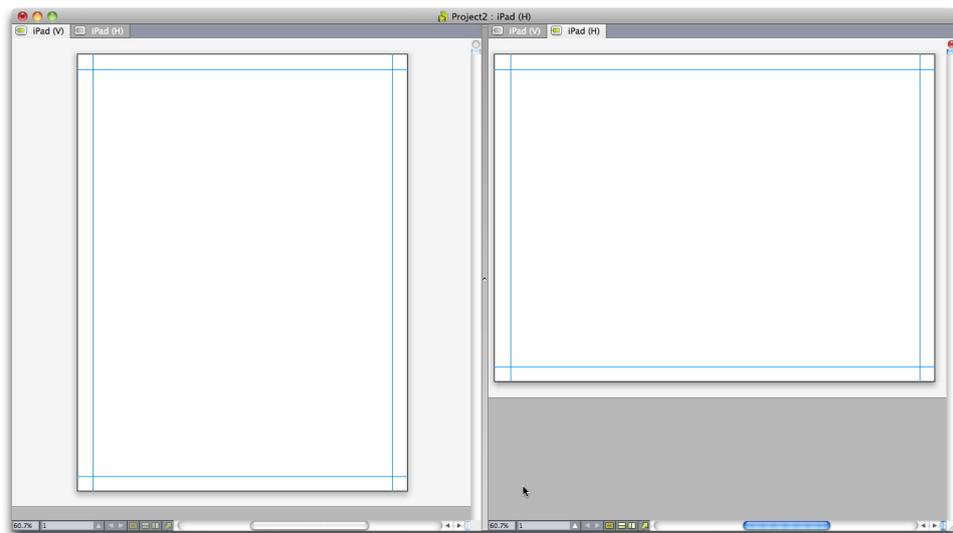
- 印刷レイアウトからAVE-Magの作品またはAVE-Docの作品として書き出すことができます。ただし、印刷レイアウトを使用した場合は、2種類の表示方向は使用できません。
- App Studioレイアウトは、AVE-Mag形式のみで書き出しできます。App Studioレイアウトの詳細は、「[AVE-Mag向けApp Studio作品の作成](#)」を参照してください。

新規印刷レイアウトまたはApp Studioレイアウトで最初からプロジェクトを作成できます。または、デジタルデバイスで使用するために既存の印刷レイアウトを変換できます。

➡ AVE-Docの作品を作成する場合は、レイアウトのサイズは自由です。

## レイアウトファミリーの理解

QuarkXPressプロジェクトファイルには、複数のレイアウトを格納できます（詳細は、『QuarkXPressガイド』の「プロジェクトとレイアウト」を参照してください）。App Studioレイアウトを作成すると、**新規プロジェクト**ダイアログボックスでオンにしたデバイスと表示方向の組み合わせごとに、個別のレイアウトがQuarkXPressで作成されます。これらのレイアウトのすべてが、1つのレイアウトファミリーのメンバーです。



分割表示で表示されたレイアウトファミリー。上部のそれぞれのタブは、レイアウトファミリーの1つであるレイアウトを表しています。

レイアウトファミリーは、1つのApp Studio作品を形成する、レイアウトのグループです。1つのレイアウトファミリーで、iPad用の横方向のレイアウト、他のタブレット用の縦方向のレイアウト、さらに別のタブレット用の縦方向と横方向の両方のレイアウトを使用できます。レイアウトファミリー内のすべてのレイアウトは、ページ数でまとめられています。レイアウトファミリーのいずれかのレイアウトでページを追加または削除すると、そのページが、レイアウトファミリー内のすべてのレイアウトで追加または削除されます。

レイアウトファミリーを使用すると、さまざまなエディションのコンテンツの各ページ間で、簡単にコンテンツを同期できます。たとえば、30ページの作品の作業で、ページ12の後ろに新規ページを追加する必要があるとします。レイアウトファミリー内のいずれかのレイアウトを開き、新規ページを追加できます。レイアウトファミリー内の他

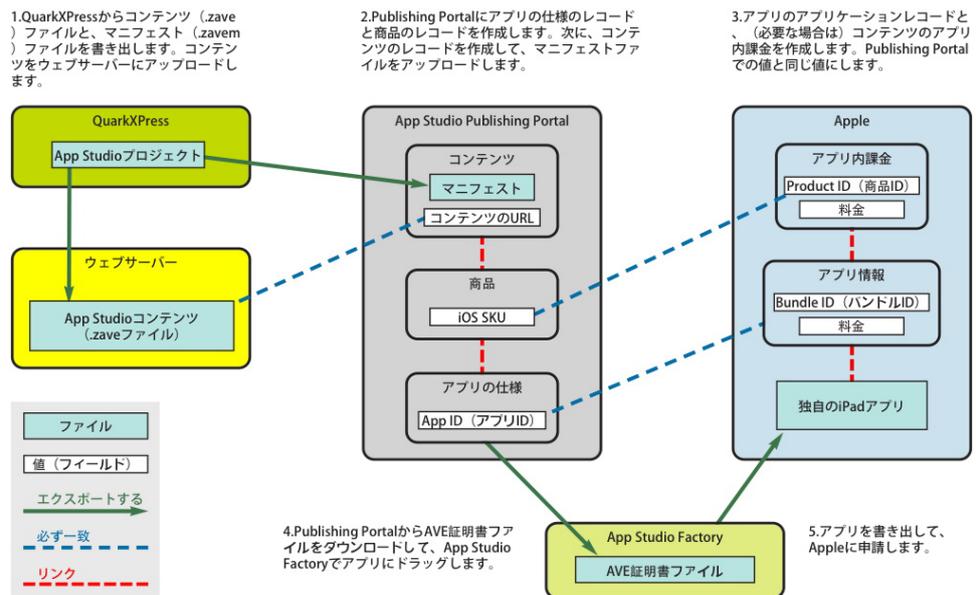
のすべてのレイアウトに、ページが自動的に挿入されます。この仕組みは、手動で1つずつ各レイアウトに新規ページを追加する方法よりも、はるかに簡単です。

レイアウトファミリーを作成すると、QuarkXPressでは分割表示でプロジェクトが表示されます。分割表示でレイアウトの作業をしなくても構いませんが、他のエディションのページとの一貫性を維持するには便利です。

App Studio作品のもう1つの便利な機能は、共有コンテンツ機能です。この機能では、画像のコピーやテキストのまとまりを他のレイアウトに配置できます。このため、たとえば、1つのレイアウトのページ5で名前を修正すると、他のすべてのレイアウトでも、名前が自動的に修正されます。詳細は、『QuarkXPressガイド』の「共有コンテンツの使用」および[表示方向間でのコンテンツの同期](#)を参照してください。

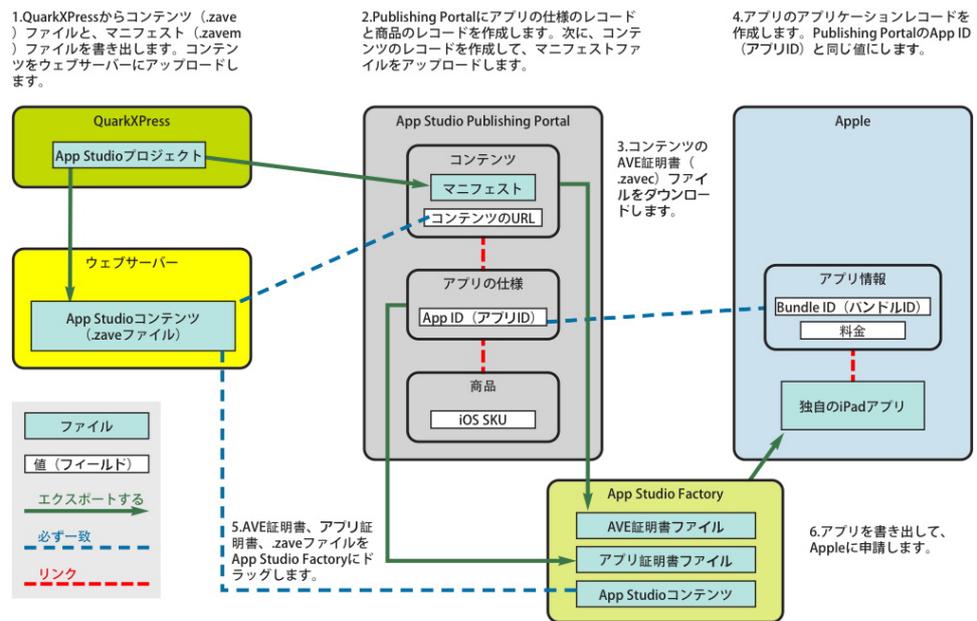
## App Studioでの発行の理解

下の図は、App Studioを使用してiPad向けにパブリッシングするためのコンポーネントと基本的な手順を示しています。1番目の図は、インターネット経由でコンテンツをダウンロードできるアプリの作成手順を示しています。2番目の図は、アプリ内にコンテンツが埋め込まれているアプリの作成手順を示しています。この図で使用されている用語については、以後のセクションで説明しています。仕組みについてよく理解できたら、これらの図に戻って参照してください。



## ダウンロード型コンテンツを使用するApp Studioアプリの作成

インターネット経由でコンテンツをダウンロードできるAppStudioアプリの作成手順



## 埋め込みコンテンツを使用するApp Studioアプリの作成

コンテンツが埋め込まれているApp Studioアプリの作成手順

### App Studio Publishing Portalの理解

顧客のiPadに、どのようにコンテンツを配置するのでしょうか？ App StudioコンテンツをApp Studioアプリに配信する方法を理解するには、Quark App Studio Publishing Portal (<http://appstudio.quark.com>) の機能について理解する必要があります。

作成するApp Studioアプリごとに、1つまたは複数のタイトルまたはコレクションをホスティングできます。

- タイトルは、雑誌や新聞のような、定期的な出版物です。
- コレクションは、関連性のある、定期的ではないコンテンツのグループです。たとえば、特定のアプリで入手可能にする、関連性のある書籍のグループをリリースする場合、それらの書籍を1つのコレクションにすることができます。

使用するアプリテンプレートが対応していると仮定した場合、1つまたは複数のタイトルやコレクションをアプリ内で発行できます。また、特定のタイトルやコレクションを複数のアプリで配信することもできます。

コンテンツとは、タイトルまたはコレクションの特定のメンバーです。たとえば、特定のタイトルを毎月リリースする場合、1年でそのタイトルのコンテンツを12個作成することになります。

QuarkXPressでApp Studioコンテンツを作成して、QuarkXPressからそのコンテンツをApp Studioコンテンツ (.zave) ファイルとして書き出し、その.zaveファイルをウェブサーバーにアップロードできます。顧客は、そのコンテンツをアプリ内から購入およびダウンロードできます。

- ➔ App Studioコンテンツは.zaveという接尾辞になっていますが、実際には、コンテンツで使用されるすべてのアセットとデータが含まれているZIPアーカイブです。

各コンテンツには、コンテンツの種類があります。コンテンツの種類は、固有の小売価格でコンテンツの特定の種類を表しています。たとえば、雑誌を表すタイトルの場合、通常のコンテンツを1つのコンテンツの種類として、少し価格の高い特別なコンテンツを2つ目のコンテンツの種類にできます（通常のコンテンツに対するコンテンツの種類を、デフォルトのコンテンツの種類と呼びます）。ブックコレクションの場合、通常の書籍をデフォルトのコンテンツの種類として、ページ数が多い書籍や特定の著者による書籍であることが理由で価格が高い書籍を、追加のコンテンツの種類にできます。コンテンツの種類の名前は自由に設定できます。

では、コンテンツの販売代金はどのように回収するのでしょうか？下記のような、複数の方法があります。

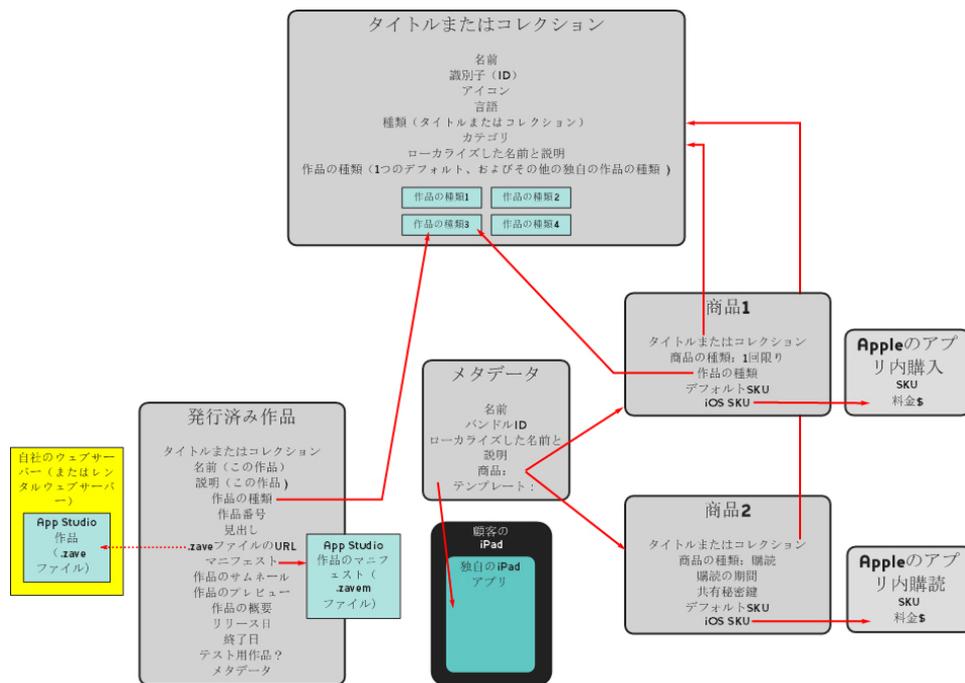
- Appleの非消費型アプリ内購入（課金）を使用できます。顧客は、コンテンツごとに購入を選択します。リリースするコンテンツごとに非消費型アプリ内購入を作成する必要があります。
- Appleの購読型アプリ内購入（課金）を使用できます。顧客は購読権を購入します。各コンテンツが入手可能になると、コンテンツを新たに購入しなくてもダウンロードできます。購読権が期限切れになると、Appleの購読ルールに従って自動的に継続されます。
- アプリ内にコンテンツを埋め込んで、そのアプリを販売できます。
- App Studio Frameworkで独自アプリを作成する場合は、購読の電子商取引システムと統合できます（Appleによる承認が必要です）。

顧客がアプリまたはコンテンツを購入すると、Appleによって、販売利益が自分のアカウントに入金されます。

各コンテンツにどのように価格を割り当てればよいのでしょうか？商品を作成することによって、行うことができます。商品によって、特定のコンテンツの種類と、特定のAppleのアプリ内購入または特定のAppleの購読が関連付けられます。顧客がコンテンツを購入すると、パブリッシングポータルでそのコンテンツに対するコンテンツの種類が参照され、そのコンテンツの種類に対応する購読またはアプリ内購入が取得されて、アプリに送信されます。

Quark App Studio Publishing Portal (<http://appstudio.quark.com>) を使用して、App Studioアプリとコンテンツを作成および管理します。このウェブアプリケーションを使用すると、下記のことが可能です。

- 対応しているコンテンツの種類の一覧とともに、タイトルまたはコレクションを作成できます。
- タイトルまたはコレクション内のコンテンツの種類ごとに、コンテンツの種類をAppleのアプリ内購入や購読にリンクする商品を作成できます。
- 個々のコンテンツごとに、入手可能になる日付を指定できます。また、必要に応じて、購入できなくなる日付も指定できます（販売終了日より前にダウンロードされたコンテンツは、販売終了日以降も顧客のデバイスに残ります。ただし、これ以降はダウンロードできません）。
- アプリの仕様を作成できます。この仕様によって、特定のApp Studioアプリを、特定の商品と関連付けます。



### Quark App Studio Publishing Portalで設定可能な関係

顧客がApp Studioアプリを起動すると、アプリがパブリッシングポータルに、そのアプリが関連付けられている商品を問い合わせます。次に、パブリッシングポータルで、それらの各商品に関連付けられているコンテンツの種類が参照され、メタデータや価格情報など、そのコンテンツの種類と一致するすべてのコンテンツについての情報が返されます。顧客は、プレビュー画像、見出し、説明、画像の概要など、それぞれの個別のコンテンツまたは購読コンテンツの情報を閲覧できます。顧客は、コンテンツを購入することに決めたら、購入ボタンをタップするだけで、Apple App Storeを通じて購入を行い、コンテンツをダウンロードして読むことができます。

## App Studio Factoryの理解

App Studio Factoryは、App Studioアプリの作成に使用できる、Mac OS向けのデスクトップアプリケーションです。プログラミングの必要はありません。アプリテンプレートの選択肢からアプリテンプレートを選択して、そのアプリテンプレートを独自の仕様にカスタマイズするだけです。

アプリテンプレートを使用すると、特定の機能が組み合わされたApp Studioアプリを作成できます。下記のように、複数種類のアプリテンプレートがあります。

- 埋め込み作品テンプレートを使用すると、アプリ内に直接、単独の作品が埋め込まれているアプリを作成できます。このアプリを購入する顧客は、自動的に作品を入手できます。ただし、他の作品は購入できません。埋め込み作品テンプレートは、1つの出版物をアプリとして販売する場合に便利です。
- キオスクテンプレートを使用すると、顧客は、特定のタイトルやコレクションと関連付けられている作品の選択肢を閲覧できます（または、一部のキオスクテンプレートでは、特定のタイトルまたはコレクションが組み合わされています）。必要な作品が見つかったら、Appleのアプリ内での購入機能や購読機能を使用して、その作品を購入できます。キオスクテンプレートは、雑誌タイトルに最適です。

- ブックストアテンプレートを使用すると、顧客は1つまたは複数のコレクションで入手可能な作品を閲覧できます。ブックストアテンプレートは、ブックコレクションに最適です。

App Studio Factoryを起動したら、必要なアプリテンプレートを選択できます。アプリテンプレートを選択したら、App Studio Factoryのユーザーインターフェイスで独自のテキストや画像を挿入して、そのテンプレートをさまざまな方法でカスタマイズできます。カスタマイズが終了したら、**Simulatorに書き出し**ボタンをクリックするだけで、Mac OSコンピュータでiOS Simulatorを使用してアプリをテストできます。

選択したアプリテンプレートに満足し、そのアプリテンプレートを使用して作成したアプリをApple App Storeに申請する場合は、使用したアプリテンプレートの種類に応じたライセンスを、Quark Store (<http://shop.quark.com>) で、またはQuark正規販売代理店を通じて購入する必要があります（詳細は、「[App Studioアプリテンプレートライセンスの購入](#)」を参照してください）。

### ガイドドリーディングの理解

ガイドドリーディングモードは、レイアウトビューで使用できる機能です。ガイドドリーディングモードを使用すると、エンドユーザーは、アートをレイアウトビューで最初から最後まで簡単に読むことができます。

iPadで作品を表示しているときにガイドドリーディングモードを使用する場合は、アートを、画面全体に広がるまで拡大します。**ガイドドリーディング**ボタンが表示されたら、ボタンをタップして、ガイドドリーディングモードにします。このモードでは、読んでいるアートの部分が自動的に画面全体に拡大され、画面の左端と右端をそれぞれタップすることによって、アート内を前後に移動できます。

印刷レイアウトの場合、App Studioでは、作成する各リフローアートに対して、自動的にガイドドリーディングモードが有効になります。ストーリーの各部分の順序は、そのストーリーのリフローアート内のコンポーネントの順序によって決まります。リフローアートの詳細は、『QuarkXPressガイド』の「リフローアートの作成」を参照してください。

- ➡ ガイドドリーディングは、AVE-Docの作品のみで使用できます。AVE-Docの作品は、印刷レイアウトからのみ作成できます。

# App Studio作品の作成

以下のトピックでは、App Studio作品の作成方法と、作品にインタラクティブ機能を追加する方法について説明します。

## AVE-Mag向けApp Studio作品の作成

印刷レイアウトからAVE-Mag形式の作品を書き出すことができますが、この形式向けに使用できる機能をフル活用するには、App Studioレイアウトを作成する必要があります。AVE-Magへの書き出しのためにApp Studioレイアウトを作成するには、**ファイル > 新規プロジェクト**を選択して、**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**App Studio**を選択します。



### App Studioレイアウト用の新規プロジェクトダイアログボックス

マージンガイドを配置するには、**マージンガイド**フィールドに値を入力します。

- ➡ 上マージンのデフォルト値には、AVEリーダーアプリのナビゲーションバーを表示できるように十分なスペースを指定します。

対応させるデバイスと表示方向を指定するには、**レイアウトメンバー**リストで、該当するデバイスの**垂直方向**や**水平方向**をオンにします。

**OK**をクリックすると、QuarkXPressで、レイアウトファミリーを持つプロジェクトが作成されます。レイアウトファミリーには、オンにしたそれぞれのデバイスや表示方向

## APP STUDIO作品の作成

の組み合わせに対応したレイアウトが含まれています。詳細は、「[レイアウトファミリーの理解](#)」を参照してください。

QuarkXPressでは、新規プロジェクトが分割表示で表示されます。このため、同時にレイアウトファミリーの複数のメンバーを使用して作業できます。詳細は、『QuarkXPressガイド』の「[ウィンドウの分割](#)」を参照してください。

- ➡ App Studioレイアウトは、AVE-Doc形式で書き出すことはできません。
- ➡ デフォルトでは、新規のApp Studioレイアウトには、**ブラック (RGB)** という名前の、RGBバージョンのブラックがあります。テキストなど、書き出されるApp Studio作品で最も濃いブラックを使用するには、デフォルトのCMYK**ブラック**カラーではなく、このバージョンのブラックを使用する必要があります。

### AVE-Doc向けApp Studio作品の作成

作品をAVE-Doc形式で書き出す場合は、印刷レイアウトとして作品を作成する必要があります（印刷レイアウトの作成の詳細は、『QuarkXPressガイド』の「[プロジェクトの使用](#)」を参照してください）。

最初から新規レイアウトを作成する場合は、対象のデバイスのサイズで印刷レイアウトを作成する必要があります。一般的なデバイスのサイズを表示するには、**ファイル > 新規プロジェクト**を選択して、**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**App Studio**を選択し、**レイアウトメンバー**のリストを参照します。使用するデバイスのサイズが決まっている場合は、**レイアウトタイプ**ドロップダウンメニューから**印刷**を選択して、**1028px x 768px**のように、ピクセルでレイアウトのサイズを指定します。

作品として使用するために既存の印刷レイアウトを変換する場合は、既存のサイズのまま構いません。レイアウトを書き出す時に、作品の表示方法を指定できます。

### App Studio作品へのインタラクティブ機能の追加

ウィンドウメニューの**App Studio**パレットで、スライドショー、ムービー、ボタン、音声、HTMLなどさまざまな種類のインタラクティブ機能をApp Studio作品に追加できます。



### App Studioパレット（上部の領域）

このパレットは、他のパレットと機能が若干異なります。このパレットを使用できるようにするには、パレットをクリックしてアクティブ化する必要があります。このため、たとえば、このパレット内のボタンをクリックするには、パレットをアクティブ化するために、パレットを一度クリックしてから、ボタンをクリックします。

このパレットには2つの領域があります。上部の領域では、各種機能を使用できます。下部の領域の、**インタラクティブアイテムのリスト**では、モバイルアプリのインタラクティブ機能が適用されている、現在のレイアウト内のアイテムのリストを表示できます。このリスト内のインタラクティブアイテムをクリックすると、アイテムが選択され、アイテムを編集できるように、アイテムの位置までアクティブな表示がスクロールされます。



### App Studioパレットのインタラクティブアイテムのリストを展開

画像ボックスにインタラクティブ機能を適用すると、アプリケーションによって、ボックスにアイコンが追加され、適用されているインタラクティブ機能の種類が表示されます。これらのアイコンを表示させるには、**表示 > ビジュアルインジケータ**がオンになっていることを確認します。下記のアイコンがあります。

- : 画像
- : スライドショー
- : ムービー
- : オーディオ
- : ボタン
- : HTMLページ
- : スクロール可能なレイアウト
- : マーカー

App Studioパレットには、多数のファイル選択コントロールがあります。Quark Publishing System (QPS) にログインしている場合は、ファイルシステムまたはQPSのどちらからファイルを選択するかを選択できます。ボタンから**QPS**を選択すると、**アセット選択**ダイアログボックスで、QPSのアセットを選択できます。

➡ Quark Publishing Systemは、パブリッシングプロセスの効率化と自動化のための広範な機能を備えたダイナミックパブリッシングプラットフォームです。App StudioとQPSを使用する方法の詳細は、『A Guide to QPS』を参照してください。QPSの一般的な情報は、<http://www.quark.com>を参照してください。

### App Studio作品へのインタラクティブな画像の追加

インタラクティブな画像は、最初はボックス内に表示されますが、ダブルタップすると画面全体に表示されます。App Studioでは、PNG、JPEG、GIF、TIFF、EPSの形式のインタラクティブな画像に対応しています。App Studio作品にインタラクティブな画像を追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 2 画像を収容するボックスを選択します。
- 3 **App Studio**パレットで、**画像**をクリックします。
- 4 **アイテム名**フィールドに、画像の内部での名前を入力します。この名前が**App Studio**パレット下部の**インタラクティブアイテム**のリスト領域に表示されます（このステップはオプションです）。
- 5 **統計ID**フィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります（このステップはオプションです）。
- 6 画像を全画面モードで表示するには、**全画面を使用**をオンにします。ユーザーは、画像を表示したときに、画像をタップすることによって、全画面モードを解除できます。
- 7 画像の縦横比が表示領域の縦横比と一致していない場合にバックグラウンドを表示するには、**セルのバックグラウンドカラー**コントロールでカラーを選択します。
- 8 バックグラウンドカラーの不透明度を変更するには、**アルファ**コントロールでパーセンテージを指定します（100% = 100%の不透明度）。
- 9 表示する画像を指定するには、**画像**タブをクリックし、**ファイル**をクリックして画像ファイルを選択します。切り抜きの長方形やスライダを使用して、ボックス内で画像を表示する方法を決めます。

10 画像にパン&ズーム効果を追加するには、**パン&ズーム効果**タブをクリックします。

- この機能をオンにするには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。
- **ディレイ**フィールドを使用して、パン&ズームが開始されるまでのディレイを指定します。
- **時間**フィールドを使用して、パン&ズームの時間を指定します。
- **拡大**ドロップダウンメニューを使用して、元の画像サイズの最大許容差（パーセント）を指定します。

11 ユーザーが画像をタップしたときにアクションを起動させるには、**アクション**タブをクリックします（詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください）。

➡ 1つの画像に複数のアクションを追加できます。

12 画像のキャプションを表示するには、**キャプション**タブをクリックし、フィールドにキャプションを入力します。キャプションは画像の下に表示されます。

- **キャプションを表示**をオンにすると、ボックスにキャプションが表示されます。
- **全画面表示モードでキャプションを表示**をオンにすると、キャプションが全画面モードで表示されます。

13 画像の設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

➡ **ファイル > 取り込み**を使用して画像ボックスに静止画像を取り込んだ場合、ページ全体表示のインタラクティブな画像によって静止画像は見えなくなります。ページのサムネイル表示では、静止画像のみが表示されます。

## App Studioコンテンツへの、画像のスライドショーの追加

App Studioでは、PNG、JPEG、TIFF、PDF、EPSの形式の画像ファイルに対応しています。App Studioコンテンツに画像ファイルのスライドショーを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 2 スライドショーを収容するボックスを選択します。
- 3 **App Studio**パレットで、**スライドショー**をクリックします。**スライドショーの種類**コントロールがパレットに表示されます。



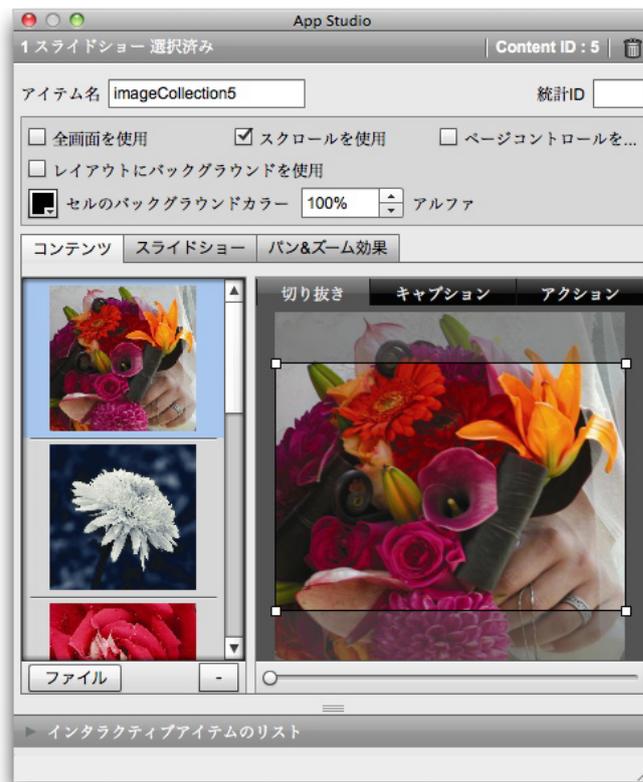
### スライドショーのオプション

- サムネールプレビューのないスライドショーを作成するには、**シンプルスライドショー**をクリックします。サムネールプレビュー付きのスライドショーを作成するには、**サムネール付きスライドショー**をクリックして、サムネールボックスの数と位置を指定します。必要な場合、サムネールボックスを移動できます。
- 次へ**をクリックします。**スライドショーのソースコントロール**が**App Studio**パレットに表示されます。



### スライドショーのソースコントロール

- 画像ファイル**をクリックして、**スライドショーを作成**をクリックします。次の画面のコンテンツタブが表示されます。



### コンテンツタブ

- 7 アイテム名フィールドにスライドショーの名前を入力します。この名前がApp Studioパレット下部の**インタラクティブアイテムのリスト**領域に表示されます
  - 8 統計IDフィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります
  - 9 スライドショーを全画面モードで表示するには、**全画面を使用**をオンにします。スライドショーをダブルタップすると、スライドショーが全画面モードで表示されます。タップすると、全画面モードを解除できます。
  - 10 ユーザーがスワイプ操作でスライドショー内の画像をスクロールできるようにするには、**スクロールを使用**をオンにします。このオプションをオンにしない場合は、**コンテンツのインデックスを変更**アクションを設定してスライドショー内の画像を切り替えるようにする必要があります。詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。
  - 11 スライドショーを表示したときにページコントロールを表示するには、**ページコントロールを表示**をオンにします。
  - 12 画像が配置されていないスライドショーの領域にソリッドカラーを表示するには、**レイアウトにバックグラウンドを使用**をオフにして、**セルのバックグラウンドカラー**コントロールを使用してカラーを指定し、**アルファ**コントロールを使用してカラーの透明度を設定します。
- ➡ **不透明度**の値はバックグラウンドのみに適用されます。スライドのイメージは、必ず100%不透明で表示されます。

**13** 画像をスライドショーに追加するには、左側のリストの下部にあるボタンから**ファイル**（ファイルシステム内のファイルの場合）または**QPS**（QPSのファイルの場合）を選択し、ファイルを選択します。画像をドラッグ&ドロップすることによって、スライドショー内の画像の順序を変えることができます。

➡ 画像を削除するには、画像を選択してからマイナスボタン (-) をクリックします。

**14** スライドにサムネールの切り抜きを設定するには、左側のリストでスライドを選択し、**切り抜きタブ**をクリックします。下部にあるスライダを使用してイメージのサイズを変更します。次に、左上から右下に切抜きの長方形をドラッグします。

**15** スライドにキャプションを追加するには、左側のリストでスライドを選択し、**キャプションタブ**をクリックします。そのタブに表示されているフィールドに、キャプションを入力します。

- **キャプションを表示**をオンにすると、ボックスにキャプションが表示されます。
- **全画面表示モードでキャプションを表示**をオンにすると、キャプションが全画面モードで表示されます。

**16** エンドユーザーがスライドをスワイプまたはタップしたときにアクションを起動させるには、左側のリストでスライドを選択し、**アクションタブ**をクリックします。

- ユーザーがスライドをスワイプしたときのアクションを追加するには、**スクロールアクションの追加**ドロップダウンメニューからアクションを選択して、**作成**をクリックします。
- ユーザーがスライドをタップしたときのアクションを追加するには、**タップアクションの追加**ドロップダウンメニューからアクションを選択して、**作成**をクリックします。

詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。

➡ 同じスライドに対して、ジェスチャーごとに複数のアクションを追加できます。

**17** スライドショーの再生を制御するには、**スライドショータブ**をクリックします。

- アニメーションを有効にするには、**アニメーションを有効にする**をオンにします。
- **遷移時間**フィールドを使用して、遷移時間を秒単位で指定します。
- **画像表示時間**フィールドを使用して、画像表示時間を秒単位で指定します。
- **効果**ドロップダウンメニューを使用して、遷移の種類を指定します。

**18** スライドショーにパン&ズーム効果を追加するには、**パン&ズーム効果タブ**をクリックします。

- この機能をオンにするには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。
- **ディレイ**フィールドを使用して、パン&ズームが開始されるまでのディレイを指定します。
- **時間**フィールドを使用して、パン&ズームの時間を指定します。
- **拡大**ドロップダウンメニューを使用して、元の画像サイズの最大許容差（パーセント）を指定します。

- 19 スライドショーの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

### App Studioコンテンツへの、レイアウトのスライドショーの追加

レイアウトのスライドショーは、プロジェクト内のさまざまなレイアウトのページを表示するスライドショーです。QuarkXPressのスライドショーの各スライドをデザインできます。

- ➡ レイアウトのスライドショー内にあるApp Studioのインタラクティブ機能は、スライドショーのプレビューが表示されているときは動作しませんが、全画面モードでスライドショーが表示されている場合は動作します。

App Studioコンテンツにレイアウトのスライドショーを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 2 スライドショーを収容するボックスを選択します。
- 3 **App Studio**パレットで、**スライドショー**をクリックします。**スライドショーの種類**コントロールがパレットに表示されます。



#### スライドショーのオプション

- 4 サムネールプレビューのないスライドショーを作成するには、**シンプルスライドショー**をクリックします。サムネールプレビュー付きのスライドショーを作成するには、**サムネール付きスライドショー**をクリックして、サムネールボックスの数と位置を指定します。必要な場合、サムネールボックスを移動できます。
- ➡ スライドショーに含まれるレイアウトを作成する場合、**番号**フィールドで指定した数のページが、アプリケーションによって自動的に作成されます。
- 5 **次へ**をクリックします。**スライドショーのソースコントロール**が**App Studio**パレットに表示されます。



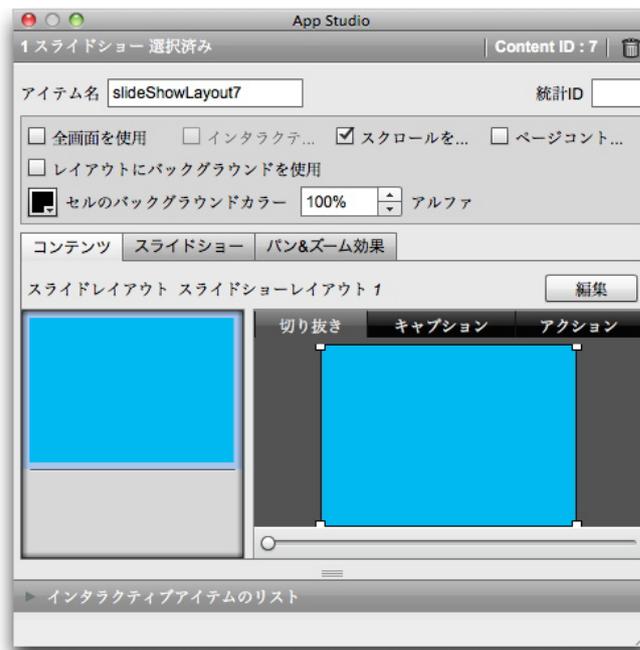
### スライドショーのソースコントロール

- 6 QuarkXPressレイアウトをクリックします。
- 7 新規レイアウトをレイアウトのスライドショーとして使用する場合は、**レイアウトの作成**をクリックして、下記の操作を行います。

- **名前**フィールドにレイアウトの名前を入力します。
- **幅**フィールドと**高さ**フィールドに幅と高さを入力します。スライドショーを画面全体に表示する場合は、レイアウトの縦横比を対象のデバイスの縦横比と合わせる必要があります。デフォルトでは、この方法で作成されるレイアウトはメインレイアウトと同じサイズです。このため、レイアウトのスライドショーは、全画面モードでの表示に適しています。

アクティブなプロジェクトで既存のレイアウトをスクロール可能なレイアウトとして使用する場合は、**レイアウトのリンク**をクリックして、そのレイアウトの名前をドロップダウンメニューから選択します（表示されるときに、レイアウトがボックスに合わせて拡大縮小されます）。

- 8 **スライドショーを作成**をクリックします。次の画面が表示されます。



### コンテンツ画面

- 9 アイテム名フィールドに、画像の内部での名前を入力します。この名前がApp Studioパレット下部の**インタラクティブアイテムのリスト**領域に表示されます（このステップはオプションです）。
  - 10 統計IDフィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります（このステップはオプションです）。
  - 11 スライドショーを全画面モードで表示するには、**全画面を使用**をオンにします。ユーザーは、スライドショーを表示したときに、スライドショーをタップすることによって、全画面モードを解除できます。
  - 12 レイアウト内のApp Studioのインタラクティブ機能を有効にするには、**インタラクティブコンテンツ**をオンにします。このボックスをオンにしない場合は、App Studioのインタラクティブ機能がレイアウトのスライドショーで動作せず、スライドの表示が速くなる場合があります。
  - 13 ユーザーがスワイプ操作でスライドショー内の画像をスクロールできるようにするには、**スクロールを使用**をオンにします。このオプションをオンにしない場合は、**コンテンツのインデックスを変更**アクションを設定してスライドショー内の画像を切り替えるようにする必要があります。詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。
  - 14 スライドショーを表示したときにページコントロールを表示するには、**ページコントロールを表示**をオンにします。
  - 15 画像が配置されていないスライドショーの領域にソリッドカラーを表示するには、**レイアウトにバックグラウンドを使用**をオフにして、**セルのバックグラウンドカラー**コントロールを使用してカラーを指定し、**アルファ**コントロールを使用してカラーの透明度を設定します。
- ➡ **不透明度**の値はバックグラウンドのみに適用されます。スライドのイメージは、必ず100%不透明で表示されます。

16 スライドショーで使用されるレイアウトを編集するには、**編集**をクリックします。

17 スライドにサムネールの切り抜きを設定するには、左側のリストでスライドを選択し、**切り抜き**タブをクリックします。下部にあるスライダを使用して画像のサイズを変更します。次に、左上から右下に切り抜きの長方形をドラッグします。画像ボックス内で画像の切り抜きを変更することによってサムネールを切り抜くこともできます。

➡ 画像ボックス内で画像を回転させたり、傾斜を変更したりしないでください。これらの変更は、最終版のコンテンツでは表示されません。

18 スライドにキャプションを追加するには、左側のリストでスライドを選択し、**キャプション**タブをクリックします。そのタブに表示されているフィールドに、キャプションを入力します。

- **キャプションを表示**をオンにすると、ボックスにキャプションが表示されます。
- **全画面表示モードでキャプションを表示**をオンにすると、キャプションが全画面モードで表示されます。

19 スライドが変わるときにアクションを起動させるには、左側のリストでスライドを選択し、**アクション**タブをクリックします。下部にある**アクションの追加**ドロップダウンメニューからアクションを選択して、**作成**をクリックします。

- ユーザーがスライドをスワイプしたときのアクションを追加するには、**スクロールアクションの追加**ドロップダウンメニューからアクションを選択して、**作成**をクリックします。
- ユーザーがスライドをタップしたときのアクションを追加するには、**タップアクションの追加**ドロップダウンメニューからアクションを選択して、**作成**をクリックします。

詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。

➡ 同じスライドに対して、ジェスチャーごとに複数のアクションを追加できます。

20 スライドショーの再生を制御するには、**スライドショー**タブをクリックします。

- アニメーションを有効にするには、**アニメーションを有効にする**をオンにします。
- **遷移時間**フィールドを使用して、遷移時間を秒単位で指定します。
- **画像表示時間**フィールドを使用して、画像表示時間を秒単位で指定します。
- **効果**ドロップダウンメニューを使用して、遷移の種類を指定します。

21 スライドショーにパン&ズーム効果を追加するには、**パン&ズーム効果**タブをクリックします。

- この機能をオンにするには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。
- **ディレイ**フィールドを使用して、パン&ズームが開始されるまでのディレイを指定します。
- **時間**フィールドを使用して、パン&ズームの時間を指定します。
- **拡大**ドロップダウンメニューを使用して、元の画像サイズの最大許容差（パーセント）を指定します。

22 スライドショーの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

➡ レイアウトのスライドショーを収容するボックスのサイズを変更できます。

➡ 別のスライドをプレビューするには、画像ボックスを選択して、**アイテム > 設定**を選択し、**レイアウト**タブをクリックして**ページ**ドロップダウンメニューの値を変更します（書き出したコンテンツの場合は、この設定に関係なく、スライドショーは必ず先頭のスライドから開始されます）。

## App Studioコンテンツへのムービーの追加

App Studioでは、対象のデバイスで再生可能なムービーファイルのみに対応しています。現時点では、下記のムービーに対応しています。

- H.264ビデオ：最大720p、毎秒30フレーム、メインプロファイルレベル3.1（最高160KbpsのAAC-LC）、48kHz、.m4v、.mp4、.movファイルフォーマットのステレオオーディオ
- MPEG-4ビデオ：最高2.5Mbps、640×480ピクセル、毎秒30フレーム、シンプルプロファイル（最高160KbpsのAAC-LC）、48kHz、.m4v、.mp4、.movファイルフォーマットのステレオオーディオ

➡ 詳細は、<http://www.apple.com/ipad/specs/>を参照してください。

➡ ムービーファイルがApp Studioコンテンツ内で動作することを確認するには、実際のiPadのSafariでビデオを表示します。iOS Simulator版のSafariでは、実際のiPadで再生できないムービーファイルが再生できます。

➡ アクションを使用してビデオファイルの再生を開始および停止できます。詳細は、「[再生、一時停止、停止、再生/停止アクションの作成](#)」を参照してください。

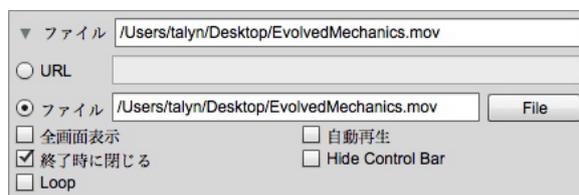
App Studioコンテンツにムービーを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 2 ムービーを収容するボックスを選択します。
- 3 **App Studio**パレットで、**ムービー**をクリックします。



#### ムービーのオプション

- 4 アイテム名フィールドに、画像の内部での名前を入力します。この名前がApp Studioパレット下部の**インタラクティブアイテムのリスト**領域に表示されます（このステップはオプションです）。
- 5 **統計ID**フィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります（このステップはオプションです）。
- 6 ムービーの場所を指定するには、**ファイル**領域を展開します。ウェブ上のムービーの場所を指定するには、**URL**をクリックして、**URL**フィールドにムービーのURLを入力します（URLは直接ムービーファイルを指定する必要があります。たとえば、YouTubeのページURLは機能しません）。ローカルファイルシステムのムービーを指定するには、**ファイル**をクリックしてから、**定義**をクリックしてムービーファイルに移動します。



#### 展開されたファイル領域

- 7 ムービーを常に全画面モードで再生するには、**全画面表示**をオンにします。
- 8 ページが表示されたときにムービーを自動的に再生させるには、**自動再生**をオンにします。
- 9 ムービーの再生が終了したときにムービーのオーバーレイを閉じるには、**終了時に閉じる**をオンにします。

- 10 ムービーのコントロールを非表示にするには、**コントロールバーを隠す**をクリックします。
- 11 ムービーを繰り返し再生するには、**ループ**をクリックします。
- 12 ムービーが再生されていないときに表示するイメージを指定するには、**代替イメージ**タブをクリックして、下部にあるボタンから**ファイル**（ファイルシステム内のファイルの場合）または**QPS**（QPSのファイルの場合）を選択し、ファイルを選択します。下部にあるスライダを使用してイメージのサイズを変更します。次に、左上から右下に切抜きの長方形をドラッグします。
- 13 代替イメージのパン&ズームを行うには、**パン&ズーム効果**タブをクリックします。
  - この機能をオンにするには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。
  - **ディレイ**フィールドを使用して、パン&ズームが開始されるまでのディレイを指定します。
  - **時間**フィールドを使用して、パン&ズームの時間を指定します。
  - **拡大**ドロップダウンメニューを使用して、元の画像サイズの最大許容差（パーセント）を指定します。
- 14 ムービーの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

## App Studioコンテンツへのオーディオの追加

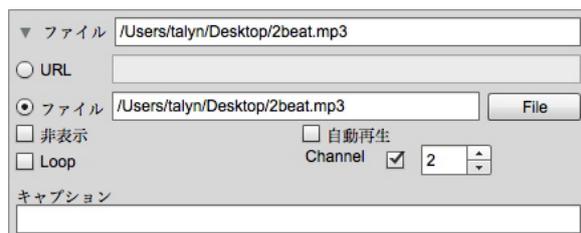
オーディオファイルを画像ボックスと関連付けできます。エンドユーザーがコンテンツを表示すると、ボックスが、サウンドを再生できるオーディオコントロールに置き換えられます。

- ➡ アクションを使用してオーディオファイルの再生を開始および停止できます。詳細は、「[再生、一時停止、停止、再生/停止アクションの作成](#)」を参照してください。
- ➡ App Studioでは、対象のデバイスで再生可能なオーディオファイルのみに対応しています。詳細は、<http://www.apple.com/ipad/specs/>を参照してください。

App Studioコンテンツにオーディオを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 2 オーディオコントロールと置き換えるボックスを選択します。
- 3 **App Studio**パレットで、**オーディオ**をクリックします。
- 4 **アイテム名**フィールドに、画像の内部での名前を入力します。この名前が**App Studio**パレット下部の**インタラクティブアイテム**のリスト領域に表示されます（このステップはオプションです）。
- 5 **統計ID**フィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります（このステップはオプションです）。
- 6 オーディオファイルの場所を指定するには、**ファイル**領域を展開します。ウェブ上のオーディオファイルの場所を指定するには、**URL**をクリックして、**URL**フィールドにオーディオファイルのURLを入力します。ローカルファイルシステムのオーディオファイルを指

定するには、**ファイル**をクリックしてから、**ファイル**ボタンをクリックしてオーディオファイルに移動します。



### 展開されたファイル領域

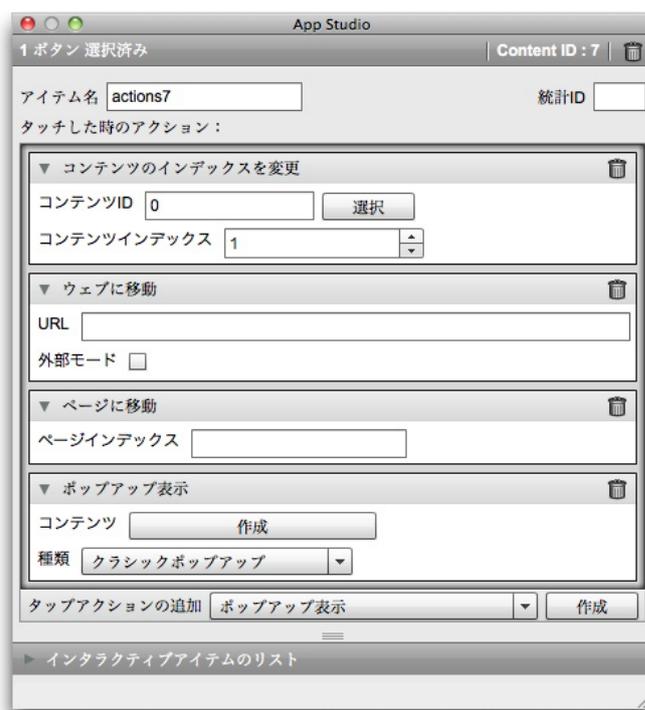
- 7 オーディオのコントロールを非表示にするには、**非表示**をクリックします。
- 8 画像ボックスがあるページをユーザーが表示したときにオーディオを自動的に再生させるには、**自動再生**をオンにします。
- 9 オーディオを繰り返し再生するには、**ループ**をクリックします。
- 10 オーディオのチャンネルを設定するには、**チャンネル**フィールドに数値を入力します。音声を別の音声と同時に再生する場合は、2つの音声を異なるチャンネルにする必要があります。1つのチャンネルで音声を再生しているときに同じチャンネルで2つ目の音声再生を開始すると、1つ目の音声は停止されます。
- 11 オーディオボックスの下部にキャプションを表示させるには、**キャプション**フィールドにキャプションを入力します。
- 12 デバイスがインターネットに接続されていない場合に画像ボックスで表示する代替イメージを指定できます。ファイルを指定するには、**代替イメージ**タブをクリックして、下部にあるボタンから**ファイル**（ファイルシステム内のファイルの場合）または**QPS**（QPSのファイルの場合）を選択し、ファイルを選択します。下部にあるスライダを使用してイメージのサイズを変更します。次に、左上から右下に切抜きの長方形をドラッグします。
- 13 画像のパン&ズームを行うには、**パン&ズーム効果**タブをクリックします。
  - この機能をオンにするには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。
  - **ディレイ**フィールドを使用して、パン&ズームが開始されるまでのディレイを指定します。
  - **時間**フィールドを使用して、パン&ズームの時間を指定します。
  - **拡大**ドロップダウンメニューを使用して、元の画像サイズの最大許容差（パーセント）を指定します。
- 14 オーディオ要素の設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

## App Studio作品へのボタンの追加

App Studio作品にボタンを追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 2 ボタンにする画像ボックスを選択します。

- 3 App Studioパレットで、**ボタン**をクリックします。
- 4 **アイテム名**フィールドに、画像の内部での名前を入力します。この名前がApp Studioパレット下部の**インタラクティブアイテム**のリスト領域に表示されます（このステップはオプションです）。
- 5 **統計ID**フィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります（このステップはオプションです）。
- 6 ボタンにアクションを追加するには、**タッチした時のアクション**領域を使用します。下部にある**アクションの追加**ドロップダウンメニューからアクションを選択して、**作成**をクリックします。同じボタンに複数のアクションを追加できます。詳細は、「[インタラクティブ機能のアクションの使用](#)」を参照してください。



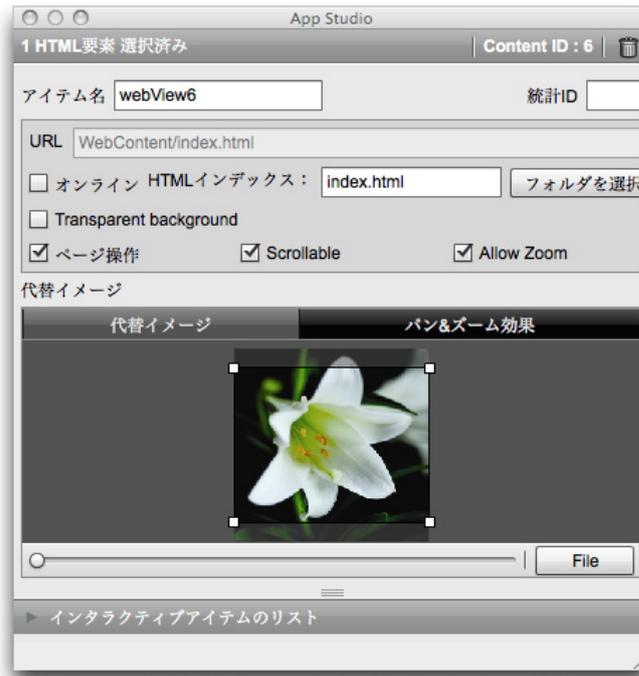
#### ボタンに追加されたアクション

- 7 ボタンの設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

### App StudioコンテンツへのHTML表示の追加

HTML表示（ウェブオーバーレイ）を使用して、広告などの内容が可変のコンテンツや、独自のインタラクティブ機能をApp Studioコンテンツに組み込むことができます。HTML表示を使用して、HTML、PDF、Word、Excel®、PowerPoint®、RTF、その他の種類のファイルを表示できます。出力デバイスでは、WebKitフレームワークがコンテンツのレンダリングに使用されています。App StudioコンテンツにHTML表示を追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 2 HTMLコンテンツを収容するボックスを選択します。
- 3 App Studioパレットで、**HTMLページ**をクリックします。



#### HTMLのオプション

- 4 アイテム名フィールドに、画像の内部での名前を入力します。この名前がApp Studioパレット下部のインタラクティブアイテムのリスト領域に表示されます（このステップはオプションです）。
- 5 統計IDフィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります（このステップはオプションです）。
- 6 コンテンツの場所を指定するには、URLフィールドにURLを入力します。URLの入力は以下のように行います。
  - オンラインをオンにして、<http://www.quark.com>のように、ウェブページのURLを入力します。URLは、<http://>のようなプロトコルで開始する必要があります。
  - オンラインをオフにして、フォルダを選択をクリックし、対象のコンテンツが含まれているフォルダを選択したら、[index.html](#)や[embedded.pdf](#)のように、そのフォルダ内にある対象のファイルの名前を入力します。そのフォルダのすべてのコンテンツがコンテンツに埋め込まれます。
- 7 コンテンツを透明なバックグラウンドで表示するには、透明バックグラウンドをオンにします。
- 8 ユーザーがコンテンツを使用できるようにするには、ページ操作をオンにします。
- 9 コンテンツをスクロール可能にするには、スクロール可能をオンにします。コンテンツがボックス全体に収まるようにするには、このコントロールをオフにする必要があります。オフにしないと、コンテンツがスクロール可能でない場合でも、コンテンツがスクロールのコントロールとともに表示されます。
- 10 ユーザーがコンテンツを拡大できるようにするには、ズームを許可をオンにします。

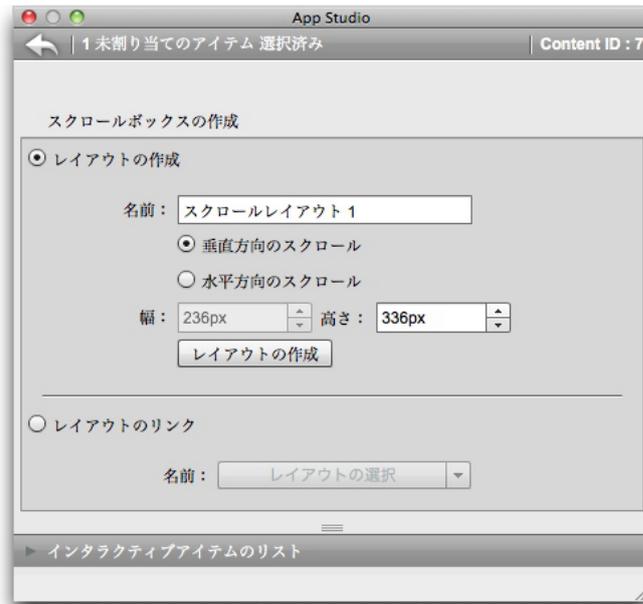
- 11 コンテンツが使用できないときに表示するイメージを指定するには、**代替イメージ**タブをクリックしてから、**ファイル**をクリックしてファイルを選択します。下部にあるスライダを使用してイメージのサイズを変更します。次に、左上から右下に切抜きの長方形をドラッグします。
- 12 コンテンツにパン&ズーム効果を追加するには、**パン&ズーム効果**タブをクリックします。
  - この機能をオンにするには、**パン&ズームを動画化**をオンにします。
  - **ディレイ**フィールドを使用して、パン&ズームが開始されるまでのディレイを指定します。
  - **時間**フィールドを使用して、パン&ズームの時間を指定します。
  - **拡大**ドロップダウンメニューを使用して、元のサイズの最大許容差（パーセント）を指定します。
- 13 HTML表示の設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

### App Studioコンテンツへのスクロール可能なレイアウトの追加

スクロール可能なレイアウト機能を使用すると、App Studioコンテンツのページにスクロール可能な領域を追加できます。スクロール可能な領域用のコンテンツは、さまざまなレイアウト（スクロール可能なレイアウト）から形成されます。スクロール可能なレイアウトを設定すると、長文テキスト、大きなパノラマ画像、一連のインタラクティブ要素などとともにレイアウトを作成できます。そのスクロール可能なレイアウトを、レイアウトファミリー内の複数のレイアウトで使用できます（詳細は、「[レイアウトファミリーの理解](#)」を参照してください）。

スクロール可能なレイアウトを設定するには、下記の手順に従ってください。

- 1 レイアウトファミリーに属しているレイアウトに移動します。
- 2 スクロール可能な領域のサイズと場所を示す画像ボックスを描画します。ボックスが選択されていることを確認します。
- 3 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
- 4 **App Studio**パレットで、**スクロールボックス**をクリックします。スクロール可能なレイアウトコントロールがパレットに表示されます。



### スクロール可能なレイアウトコントロール

- 5 新規レイアウトをスクロール可能なレイアウトとして使用する場合は、**レイアウトの作成**をクリックして、下記の操作を行います。
  - **名前**フィールドにレイアウトの名前を入力します。
  - スクロールの方向を指定するには、**垂直方向のスクロール**または**水平方向のスクロール**をクリックします。
  - スクロール可能なレイアウトの幅や高さを指定するには、**幅**または**高さ**フィールドに値を入力します（レイアウトがスクロールする方向のみに、この値を指定できます）。
  - **レイアウトの作成**をクリックします。アクティブなプロジェクトに新規レイアウトが追加され、選択したボックスにリンクされます。
- 6 2つ目のボックスを同じスクロール可能なレイアウトにリンクすることもできます。アクティブなプロジェクトで既存のレイアウトをスクロール可能なレイアウトとして使用する場合は、**レイアウトのリンク**をクリックして、そのレイアウトの名前をドロップダウンメニューから選択します。スクロールの方向は、レイアウトの表示方向によって決まります。高さよりも幅の方がある場合は水平方向にスクロールします。幅よりも高さの方がある場合は垂直方向にスクロールします。選択したボックスのサイズは、レイアウトに合わせて調整されます。
- 7 スクロール可能なレイアウトをボックスにリンクすると、**App Studio**パレットに下記のコントロールが表示されます。



### スクロール可能なレイアウトコントロール

- スクロール可能なレイアウトを編集するには、**編集**をクリックします。
- デフォルトでスクロールボックスに表示されるページを変更するには、**ページ**フィールドの値を変更します。
- スクロールボックスの端をデバイスのバックグラウンドに融合させるには、**終端でフェード**をオンにします。
- スクロールバーを、領域がスクロール可能な視覚の手がかりとして使用するには、**矢印を表示**をオンにします。
- スクロール可能なレイアウトに複数のページが含まれていて、そのページを1つの長いスクロール可能な要素に結合させる場合、**書き出し時にページをチェーン**をオンにします。このボックスをオンにしない場合は、ページ間は吸着の遷移になります。

スクロール可能なレイアウトをスクロールボックスにリンクすると、スクロールしない方向でボックスのサイズがロックされます。この方向のボックスのサイズを変更する場合は、ボックスに関連付けられているレイアウトのサイズを変更する必要があります。ボックスを、Ctrlキーを押しながらクリックまたは右クリックして**コンポジションゾーン** > **編集**を選択すると、いつでもそのレイアウトに移動できます。**アイテム** > **コンポジションゾーン** > **編集**を選択することもできます。

ボックス内のスクロール可能なレイアウトのさまざまな部分を表示する場合は、**画像コンテンツツール**  でボックスをダブルクリックして、ボックス内のアイテムコンテンツをクリックアンドドラッグします。

### スクロール可能なレイアウトへのマーカーの追加

スクロール可能なレイアウトにマーカーを含めることができます。マーカーとは、表示にスクロールインおよびスクロールアウトしたときにアクションのトリガーとなるボックスです。たとえば、スライドショーを作成し、スクロール可能なレイアウトでマーカーを使用すると、スクロール可能なレイアウトでストーリーの別の部分が表示されたときにスライドが変わるようにできます。

マーカーをスクロール可能なレイアウトに追加するには、下記の手順に従ってください。

- 1 画像のスライドショーまたはレイアウトのスライドショーを作成します。
  - 2 スクロール可能なレイアウトを同じページに作成します。
  - 3 スクロール可能なレイアウトを編集するには、スクロール可能なレイアウトを選択して、**アイテム > コンポジションゾーン > 編集**を選択します。スクロール可能なレイアウトが新規ウィンドウに表示されます。
  - 4 表示させるスライドごとにボックスを描画して、そのスライドを表示させるレイアウト内のポイントの近くにボックスを配置します。たとえば、スライドショーで、アールティクル内で言及された人物の画像を表示させる場合は、その人物が言及されたアールティクル内の場所の近くにボックスを配置します。
- ➡ 1つのスクロール可能なレイアウト内で複数のチャンネルを使用できます。各チャンネルは、個々の一連のマーカーボックスから構成されています。1つのチャンネル内のマーカーボックスではムービーを制御し、別のチャンネル内のマーカーボックスでは表示するスライドを制御できます。複数のチャンネルを使用する場合、チャンネル内のすべてのボックスで同じバックグラウンドカラーを使用して、簡単にボックスを区別できるようにすることを検討できます。
- 5 ウィンドウメニューの**App Studio**パレットを表示します。
  - 6 マーカーにするボックスを選択します。
  - 7 **App Studio**パレットで、マーカーをクリックします。マーカーコントロールがパレットに表示されます。



### マーカーのオプション

- 8 **アイテム名**フィールドに、マーカーの内部での名前を入力します。この名前が**App Studio**パレット下部の**インタラクティブアイテムのリスト**領域に表示されます。

- 9 統計IDフィールドに固有の値を入力します。今後、この値はユーザーの行動を追跡するために使用される可能性があります
- 10 マーカーがチャンネルの一部である場合は、**チャンネルID**ドロップダウンメニューからチャンネルIDを選択します。
- 11 マーカーアイテムが画面上にスクロールしたときや、同じチャンネルの他のマーカーよりも画面上で目立つようになったときにどうするかを指定するには、**アクティブ時のアクション**タブをクリックして、適切なアクションを追加します。  
スライドショーに表示される画像を変更するには、**コンテンツのインデックスを変更**を選択します。詳細は、「[コンテンツのインデックスを変更アクションの作成](#)」を参照してください。
- 12 マーカーアイテムがスクロールして画面上から外れたときや、同じチャンネルの他のマーカーよりも画面上で目立たなくなったときにどうするかを指定するには、**非アクティブ時のアクション**タブをクリックして、適切なアクションを追加します。  
スライドショーに表示される画像を変更するには、**コンテンツのインデックスを変更**を選択します。詳細は、「[コンテンツのインデックスを変更アクションの作成](#)」を参照してください。
- 13 画像の設定を終了するには、別のオブジェクトまたはレイアウトの空白部分をクリックします。

### アイテムからのインタラクティブ機能の削除

アイテムからインタラクティブ機能を削除するには、アイテムを選択してから、**App Studio**パレットで**アイテムのインタラクティブ機能を削除**  をクリックします。アイテムは削除されません。

### インタラクティブ機能のアクションの使用

アクションを使用すると、App Studioアプリとして書き出すレイアウト内のアイテムに、インタラクティブ機能を追加できます。下記のアクションを使用できます。

- **コンテンツのインデックスを変更**：スライドショーに表示される画像を変更します。
- **ウェブに移動**：選択したアイテムにタッチすると、URLに移動します。URLはオーバーレイに表示されます。
- **ページに移動**：選択したアイテムにタッチすると、指定のページ番号にジャンプします。
- **ポップアップ表示**：スライドショー、ムービー、HTMLコンテンツを表示するポップアップウィンドウを作成できます。
- **全画面表示**：インタラクティブオブジェクトを画面全体に表示できます。

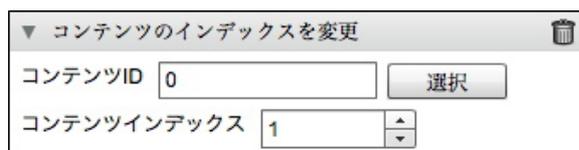


スライドショーに適用されているアクション

### コンテンツのインデックスを変更アクションの作成

コンテンツのインデックスを変更アクションでは、スライドショーで現在表示されている画像を変更できます。コンテンツのインデックスを変更アクションを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 アクションの追加ドロップダウンメニューからコンテンツのインデックスを変更を選択して、作成をクリックします。



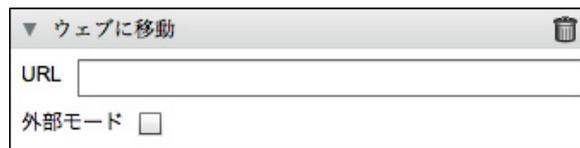
### コンテンツのインデックスを変更アクション

- 2 変更するスライドショーを指定するには、**選択**をクリックしてから、レイアウト内の対象とするスライドショーのボックスをクリックします。または、**コンテンツID**フィールドに、対象とするスライドショーのボックスのコンテンツIDを入力できます（コンテンツIDを取得するには、スライドショーのボックスを選択して、**App Studio**パレットの右上を参照します）。
- 3 表示する画像を指定するには、**コンテンツインデックス**フィールドに値を入力します。スライドショー内の最初の画像が画像1です。

### ウェブに移動アクションの作成

**ウェブに移動**アクションでは、アクションが関連付けられているボックスをタップすると、オーバーレイにURLのコンテンツが表示されます。**ウェブに移動**アクションを作成するには、まず、**アクションの追加**ドロップダウンメニューから**ウェブに移動**を選択して、**作成**をクリックします。次に、**URL**フィールドにアクションのURLを入力します。

➡ URLは、<http://>のようなプロトコルで開始する必要があります。



### ウェブに移動アクション

デバイスのデフォルトウェブブラウザでURLを表示させるには、**外部モード**をオンにします。

## ページに移動アクションの作成

**ページに移動**アクションでは、コンテンツ内の別のページにジャンプできます。**ページに移動**アクションを作成するには、まず、**アクションの追加**ドロップダウンメニューから**ページに移動**を選択して、**作成**をクリックします。次に、**ページインデックス**フィールドから、移動先ページの絶対ページ番号を入力します。



### ページに移動アクション

- ➡ 移動先ページの絶対ページ番号を取得するには、**ページレイアウトパレット**（**ウィンドウメニュー**）でページアイコンをOption+クリックまたはAlt+クリックします。

存在しないページの番号を入力すると、**ページインデックス**フィールドが赤でハイライトされます。

別のレイアウト内のページにジャンプするには、レイアウトの番号に続けてハイフンとページ番号を入力します。たとえば、プロジェクトの3番目のレイアウトの9ページ目に移動するには、**3-9**と入力します（レイアウト1は、1番目のレイアウトタブのレイアウトです）。この方法で、スクロール可能なレイアウトに目次を作成できます。

- ➡ **ページに移動**アクションの移動先ページの場所を変更する場合は、その**ページに移動**アクションのページ番号も変更する必要があります。たとえば、ページ20を移動してページ18にする場合は、ページ20に移動する**ページに移動**アクションを、ページ18に移動するように変更する必要があります。

## ポップアップの作成

**ポップアップ表示**アクションでは、スライドショー、ムービー、HTMLページ、PDF、その他のコンテンツを表示するポップアップを作成できます。App Studioコンテンツにポップアップを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **アクションの追加**ドロップダウンメニューで、**ポップアップ表示**アクションを作成します。このドロップダウンメニューは**App Studio**パレットで使用でき、アクションを何らかの要素と関連付けできます。



### 新規ポップアップ表示アクション

2 種類ドロップダウンメニューから以下のオプションを選択します。

- **クラシックポップアップ**では、境界付きのポップアップウィンドウが作成されます。
- **中央表示のポップアップ**では、画面の中央にポップアップウィンドウが作成されます。ウィンドウの周囲は影付きのバックグラウンドで表示されます。
- **全画面表示のポップアップ**では、画面全体に表示されるポップアップウィンドウが作成されます。

ポップアップウィンドウ以外の場所をタップすると、全画面表示を解除できます。

3 作成をクリックします。App Studioパレットに、**要素の作成**画面が表示されます。



### 要素の作成画面

- 4 **スライドショー**をクリックすると、ポップアップのスライドショーが作成されます。**HTMLページ**をクリックすると、ポップアップのHTML表示が作成されます。**ムービー**をクリックすると、ポップアップのムービーが作成されます。詳細は、「[App Studioコンテンツへの、画像のスライドショーの追加](#)」、「[App StudioコンテンツへのHTML表示の追加](#)」および「[App Studioコンテンツへのムービーの追加](#)」を参照してください。
- 5 ポップアップのサイズを指定するには、パレットの上部にある**幅**と**高さ**フィールドにピクセル数で値を入力します。

追加するポップアップのスライドショーまたはHTMLページの作成を開始した場合、をクリックすると、そのポップアップを表示したアクションに戻ることができます。

### 全画面表示アクションの作成

全画面表示アクションでは、対象のアイテムを全画面表示モードで表示します。

➡ 全画面表示アクションでは、音声のアイテムは使用できません。

全画面表示アクションを作成するには、まず、**アクションの追加**ドロップダウンメニューから**全画面表示**を選択して、**作成**をクリックします。対象のオブジェクトを指定するには、**選択**をクリックしてからインタラクティブアイテムをクリックするか、コンテンツ

IDフィールドにアイテムのコンテンツIDを入力します（アイテムのコンテンツIDは、アイテムを選択するとApp Studioパレットの上部に表示されます）。

### 全画面表示アクション

## 再生、一時停止、停止、再生/停止アクションの作成

再生、一時停止、停止、再生/停止アクションで、ムービーやオーディオを再生および停止させるコントロールを作成できます。

➡ これらのアクションは、ムービーと音声のアイテムのみで使用できます。

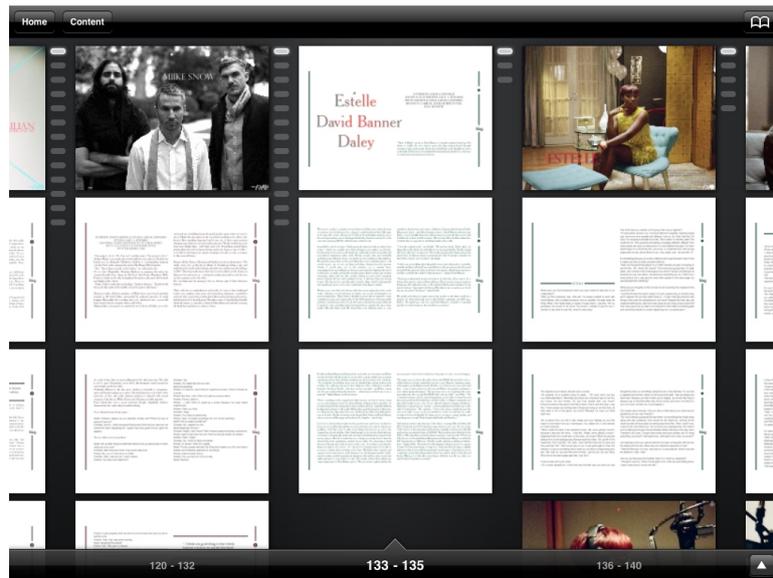
- **再生**アクションでは、ムービーまたは音声は先頭から再生されます。
- **一時停止**アクションでは、ムービーまたは音声は停止されます。一時停止アクションの後に再生アクションを実行すると、ムービーまたは音声は、停止された場所から再開されます。
- **停止**アクションでは、ムービーまたは音声は停止されます。停止アクションの後に再生アクションを実行すると、ムービーまたは音声は先頭から再生されます。
- **再生/停止**アクションでは、ムービーまたは音声は再生中の場合は再生が停止され、ムービーまたは音声は停止中の場合は再生が再開されます。

これらのアクションを作成するには、まず、**アクションの追加**ドロップダウンメニューからアクションの名前を選択して、**作成**をクリックします。対象のオブジェクトを指定するには、**選択**をクリックしてからインタラクティブアイテムをクリックするか、コンテンツIDフィールドにアイテムのコンテンツIDを入力します（アイテムのコンテンツIDは、アイテムを選択するとApp Studioパレットの上部に表示されます）。

### 再生、一時停止、停止、再生/停止の各アクション

## ページスタックの作成

ページスタック機能とは、コンテンツのセクションをページの「スタック」に整理できる機能です。iPadでは、サムネールを水平方向に並べて表示して、（雑誌のアーティクルなど、）各サムネールでコンテンツのセクションを表示できます。各サムネールの下には、スクロール可能な垂直方向のページサムネールのリストが表示されます。



### ページスタック

ページ全体の表示では、ページスタックのデザインによって、ユーザーは水平方向のスクロールで記事全体を閲覧し、垂直方向のスクロールで記事を読むことができます。

App Studio作品をページスタックで整理するには、レイアウトをセクションに分割して、各セクションがページスタックの先頭ページになるようにする必要があります。また、各セクションの開始番号に、そのページの絶対ページ番号を設定する必要があります。

ページスタックを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 **ページレイアウト**パレットで、現在のページをOption+クリックまたはAlt+クリックします。パレットの下部にページの絶対ページ番号が表示されます。「+」で始まります。
- 2 **ページ > セクション**を選択して、**ページレイアウト**パレットの絶対ページ番号を**番号**フィールドに入力します。
- 3 **OK**をクリックします。
- 4 ページスタックの開始ページとして指定するページごとに、これらのステップを繰り返します。
- 5 レイアウトを書き出すときに、**AVEオプション**ダイアログボックスで、ページスタックが有効になっていることを確認してください。詳細は、「[App Studioコンテンツの書き出しオプションの設定](#)」を参照してください。

### 2種類の表示方向の使用

AVE-Mag形式で発行する場合は、横方向と縦方向として、作品を異なる方法で表示できます。このためには、**App Studio**レイアウトを作成する必要があります。App Studioレイアウトでは、同じプロジェクト内に、縦方向の表示用と横方向の表示用の、2つのレイアウトが自動的に作成されます。

QuarkXPressプロジェクトにレイアウトを追加するには、**レイアウト > 新規**を選択し、レイアウトタイプメニューから**App Studio**を選択して、OKをクリックします。QuarkXPressで、横方向の表示用のレイアウトと縦方向の表示用のレイアウトが自動的に作成されます。

### 表示方向間でのコンテンツの同期

本トピックで説明するコマンドを使用すると、レイアウトファミリー内のさまざまなレイアウト間でページのコンテンツを同期できます。たとえば、iPad用の縦組みレイアウトのページ2に目次を作成する場合、本トピックで説明するコマンドを使用すると、自動的に目次が共有コンテンツに変換され、iPad用の横組みレイアウトやGalaxy Tab用の縦組みレイアウトのページ2にコピーされます。他のレイアウトではコンテンツの位置やサイズの変更が必要な場合がありますが、これらのコマンドを使用すると、コンテンツをそれぞれのデバイスや表示方向に適したページに変換するプロセスを自動化できます。また、表示されるすべてのページで、そのコンテンツの一貫性を維持できます。

➡ 共有コンテンツの詳細は、『QuarkXPressガイド』の「共有コンテンツの使用」を参照してください。後述のコマンドの機能を理解するには、最初に、共有コンテンツの機能について理解する必要があります。

**アイテム > 他のレイアウトにコピー**：このコマンドを使用すると、選択したボックスがすべて共有コンテンツに変換され、レイアウトファミリー内の他のレイアウトの同じページにボックスのコピーが配置されます。このコマンドのサブメニューを使用すると、さらに詳細なコピー機能を実行できます。

- **同じ位置**：可能な場合、ページの左上を基点にして、同じ位置にコピーが配置されます。このオプションでは、レイアウトファミリー内の他のすべてのレイアウトにアイテムがコピーされます。
- **相対位置を使用**：ページのサイズと形状全体に比例して、同じ位置にコピーが配置されます。このオプションでは、レイアウトファミリー内の他のすべてのレイアウトにアイテムがコピーされます。

### コンテンツページの設定

AVE-Mag形式でコンテンツを書き出す場合は、目次に含むページを指定できます。コンテンツの表示中に、1度タップすることによって、コンテンツボタンとともに上部にバーを表示できます。ここでコンテンツボタンをタップすると、目次ページに移動できます。

目次に含むページを指定するには、**レイアウト > AVEコンテンツページ**を選択し、**コンテンツページ番号**フィールドに絶対ページ番号を入力してからOKをクリックします。

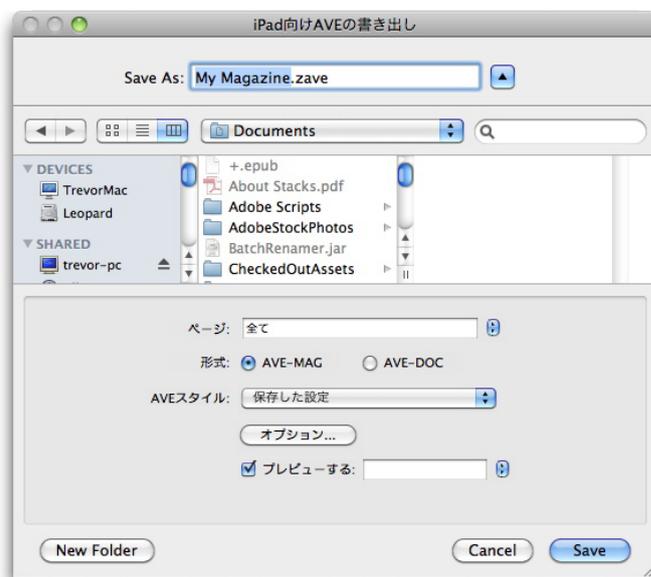
### デジタルパブリッシングアセットの使用状況の確認

アクティブなレイアウト内のBlioやApp Studioのインタラクティブ機能で使用されているアセットを確認するには、**使用状況**ダイアログボックス（補助メニュー）の**デジタルパブリッシング**ペインを表示します。画像ペインと同様に、**デジタルパブリッシング**ペインには、レイアウト中の各デジタルパブリッシングアセットに含まれるページ番号（ペーストボードを示すダガー記号やPB）が表示されます。また、アセットの種類を示

す種類列と、そのアセットがファイルであるかフォルダであるかを示すソース列もあります。選択したアセットの詳細を表示するには、下部にある**詳細**領域を展開します。

### App Studioコンテンツの書き出し

App Studioコンテンツを書き出すには、**ファイル > 書き出し > AVE形式のレイアウト**を選択します。**iPad向けAVEの書き出し**ダイアログボックスが表示されます。



#### iPad向けAVEの書き出しダイアログボックス

**新規保存**フィールドに、書き出す.zaveファイルの名前を入力します。App Studioパブリッシングポータルでの問題を回避するため、スペースや特殊文字を含まない名前を使用します。

**ページ**フィールドを使用して、コンテンツに含めるページを指定します。単一ページのみ、または5-10のように単一ページ範囲を入力できます。

**形式**コントロールを使用して、AVE-MagまたはAVE-Docのどちらの形式で書き出すかを指定します。これらのオプションの詳細は、「[App Studioの理解](#)」を参照してください。

**AVEスタイル**ドロップダウンメニューで、AVE出力スタイルを選択できます（詳細は、『QuarkXPressガイド』の「出力スタイルの使用」を参照してください。このプロジェクトファイルで最後に使用した設定を使用するには、**保存した設定**を選択します。

**オプション**ボタンをクリックすると、**AVEオプション**ダイアログボックスが表示されます。詳細は、「[App Studioコンテンツの書き出しオプションの設定](#)」を参照してください。

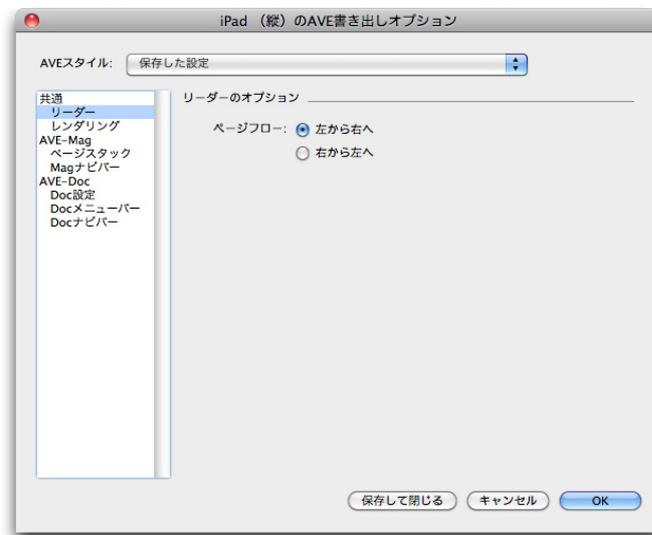
書き出し後にコンテンツをすぐにiPad上でQuark App Studio Issue Previewerアプリを使用してプレビューするには、iPadでアプリを起動して、**プレビューする**をオンにして、iPadまたはiOS Simulatorのインスタンス用のアップロード先URLを入力します。先頭のhttp://は不要です（詳細は、「[App Studio作品のテスト](#)」を参照してください）。

終了したら、**保存**をクリックします。QuarkXPressでは下記の2種類のファイルが書き出されます。

- コンテンツ (.zave) ファイル。
- コンテンツのマニフェスト (.zavem) ファイル。Quark App Studioパブリッシングポータルを使用してコンテンツファイルを発行する場合は、このファイルが必要です（詳細は、「[App Studioコンテンツの発行](#)」を参照してください）。

## App Studioコンテンツの書き出しオプションの設定

iPad向けAVEの書き出しダイアログボックスで**オプション**ボタンをクリックすると、**AVEオプション**ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、AVEの書き出しに関するさまざまな設定を制御できます。



### AVEオプションダイアログボックス

リーダーペインでは、ページフローを左から右へまたは右から左へのどちらにするか制御できます。

レンダリングペインには、下記のコントロールがあります。

- **PDF出力スタイル**：コンテンツを作成するときに使用するPDF出力スタイルを制御できます。
- **JPEG画質**：コンテンツを作成するときに使用するJPEG画質を制御できます。
- **デバイスの解像度**：出力デバイスの解像度を指定できます。
- **可能な場合、デバイスリソースの解像度を使用**：特定の解像度を指定するのではなく、**新規プロジェクト**または**新規レイアウト**ダイアログボックスで指定したデバイスの解像度を使用できます。
- **ページプレビューを含む**：ページプレビューを使用すると、ファイルサイズは大きくなりますが、ページをめくる動作が速くなります。

ページスタックペインでは、セクションをページスタックに変換するかどうかを指定できます。変換する場合は、スタックの配置方法も指定できます。

**Magナビバー**ペインでは、水平方向と垂直方向のナビゲーションバーでの画質やサイズを指定できます（AVE-Magでの書き出しのみ）。

**Doc設定**ペインでは、ページの表示方法、ガイドドリーディングのオンまたはオフ、ページ間の吸着、ズーム機能の有効化または無効化を指定できます（AVE-Docでの書き出しのみ）。

**Docメニューバー**ペインでは、エンドユーザーがコンテンツをタップしたときに使用可能になるメニューバーの表示を制御できます。メニューバーの可視性や透過性、バーの種類、高さ、カラー、使用するメニューアイテムを制御できます（AVE-Docでの書き出しのみ）。各メニューアイテムのオプションは下記のとおりです。

- **種類**：メニューアイテムの種類を選択できます。
  - **フレックススペース**：コマンドを関連付けずにフレックススペースが追加されます。
  - **閉じる**：コンテンツを閉じて、アプリに戻ります。
  - **設定**：ページの表示方法、吸着の方法、最大表示倍率、「読む」メニューを含むかどうかをエンドユーザーが制御できるポップアップが表示されます。
  - **ヘルプ**：アプリのヘルプが表示されます。このコンテンツはアプリテンプレートごと固有です。
  - **ブラウザ**：エンドユーザーがコンテンツのページをサムネイル画像で参照できます。
  - **概要**：コンテンツページが表示されます（詳細は、「[コンテンツページの設定](#)」を参照してください）。
  - **ラベル**：メニューバーにラベルを追加できます。
  - **ページラベル**：ページラベルが、Page X / Totalの形式で追加されます。
  - **ブックマークを追加／削除**：エンドユーザーが、アクティブなコンテンツのページのブックマークを追加できます。AVE-Docの場合のみ有効です。
  - **ノートを追加／削除**：エンドユーザーが、アクティブなコンテンツのページにノートを追加できます。AVE-Docの場合のみ有効です。
  - **ブックマークとノートを表示**：アクティブなコンテンツのブックマークとノートがすべて表示されます。
  - **全ページを表示**：グリッド内のアクティブなコンテンツのすべてのページが表示されます。
- **タイトル**：メニューアイテムのタイトルを入力できます。
- **カラー**：タイトルのカラーを指定できます。
- **イメージ**：タイトルの代わりに画像を表示できます。
- **B.G.**：メニューアイテムの背景として表示する画像を指定できます。

プラス（+）ボタンとマイナス（-）ボタンを使用して、メニューアイテムの追加と削除ができます。

**Docナビバー**ペインでは、ドキュメントナビゲーションバーの表示を制御できます。このバーは画面下部に表示され、ユーザーがコンテンツ内を簡単に移動できるようにします。下記のコントロールがあります。

- **なし**：ドキュメントナビゲーションバーは表示されません。

- **スプレッド表示**：スプレッド型のドキュメントナビゲーションバーが表示されます。
  - **常に表示**：このボックスがオフの場合は、コンテンツをタップするとドキュメントナビゲーションバーを表示できます。
  - **半透明**：オンの場合、ドキュメントナビゲーションバーは半透明です。
  - **高さ**：ドキュメントナビゲーションバーの高さを制御できます。
  - **カラー**：サムネールの周囲のフレームのカラーを制御できます。
  - **描画**：**サムネールを使用**をクリックすると、ナビゲーションバーにページサムネールが表示されます。**ページ番号を使用**をクリックすると、ナビゲーションバーにページ番号が表示されます。
  - **ポップアップを使用**：このボックスをオンにすると、ナビゲーションバーの上にポップアップのページプレビューが表示されます。
  - **ポップアップのサイズ**：ポップアッププレビューの最も長い方のサイズをピクセル数で指定できます。
  - **全画面ボタンを表示**：ページプレビューのグリッドを画面全体に表示するボタンがあります。エンドユーザーは移動先のページをタップできます。
- **スタック表示**：スタック型のドキュメントナビゲーションバーが表示されます。
  - **常に表示**：このボックスがオフの場合は、コンテンツをタップするとドキュメントナビゲーションバーを表示できます。
  - **幅**：スタックのサムネールの幅をピクセル数で指定できます。
  - **高さ**：スタックのサムネールの高さをピクセル数で指定できます。
  - **アークティクル間隔**：アークティクル間の距離をピクセル数で指定できます。
  - **ページ間隔**：ページ間の距離をピクセル数で指定できます。
  - **スクロール速度変更**：ページのスクロールの速さを制御できます。

### 書き出したApp Studioコンテンツのリソースの置き換え

App Studio (.zave) ファイルは、ファイル名の接尾辞が異なる.zipファイルです。.zave ファイルを解凍すると、.jpgファイルや.pngファイルなどの、コンテンツを構成しているファイルにアクセスできます。これらのリソースをアップデートする必要がある場合、アップデートできます。ただし、その場合、アップデートした.zaveファイルに合わせた、新しいマニフェスト (.zavem) ファイルを作成する必要があります。

.zaveファイルをアップデートして新しい.zavemマニフェストを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 .zaveファイルの接尾辞を.zipに変更します。
- 2 .zipファイルは解凍しないでください。
- 3 必要に応じて、リソースをアップデートまたは置き換えます。
- 4 App Studioコンテンツのアセットが含まれているフォルダのコンテンツを圧縮して、.zipファイルを作成します。
- 5 .zipファイルの接尾辞を.zaveに変更します。

- 6 AVE Manifest Generator Quark アプリケーションを起動します。このファイルは、QuarkXPressアプリケーションフォルダ内の"App Studio"フォルダにあります。**AVE Manifest Generator**ウィンドウが表示されます。



### AVE Manifest Generatorウィンドウ

- 7 新しい.zaveファイルをウィンドウ上にドラッグします。ダイアログボックスが表示されます。
- 8 **OK**をクリックします。マニフェストファイルが生成されます。マニフェストファイルは.zaveファイルと同じファイル名ですが、接尾辞が.manifestです。別のダイアログボックスが表示されます。
- 9 **OK**をクリックします。
- 10 マニフェストファイルの接尾辞の名前を.zavemに変更します。

Quark App Studio Publishing Portalでこのファイルを発行するときは、新しい.zaveファイルもアップロードする必要があります。詳細は、「[App Studioコンテンツの発行](#)を参照してください」。

## Quark App Studio Issue Previewerのインストール

Quark App Studio Issue Previewerを使用すると、Mac OS上でApp Studioコンテンツをテストできます。Apple App Storeから無料でiPadにこのアプリをダウンロードできます。または、MacコンピュータにこのアプリをインストールしてiOS Simulatorで実行できます。MacコンピュータにQuark App Studio Issue Previewerをインストールするには、下記の手順に従ってください。

- 1 Xcode 4.0以降がインストールされているか確認します。
  - 2 "App Studio"フォルダの"Issue Previewer for iOS Simulator.zip"ファイルを見つけます。
- ➡ 便宜上、このファイルはMac OS用とWindows用の両方に対して提供されています。ただし、App Studio Factoryが動作するのはMac OSコンピュータのみです。
- 3 このフォルダ内のzipファイルを解凍します。長い文字列で構成された名前のフォルダが作成されます。
  - 4 解凍したフォルダを、[ハードディスク]/Users/[ユーザー名]/Library/Application Support/iPhone Simulator/[iOSのバージョン]/Applicationsにコピーします。

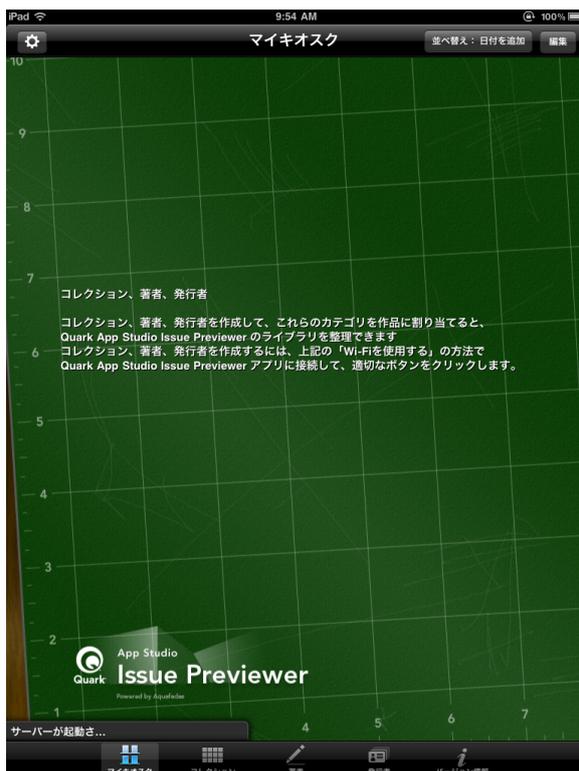
- ➡ MacOS 10.7以降の場合、"Library"フォルダはデフォルトでは非表示になっています。このフォルダに移動するには、Finderで**移動 > フォルダへ移動**を選択し、~/Libraryと入力して**移動**をクリックします。
- 5 iOS Simulatorを起動します。
    - バージョン4.3より前のXcodeがインストールされている場合は、[ハードディスク]/Developer/Platforms/iPhoneSimulator.platform/Developer/Applicationsに移動して、"iOS Simulator"ファイルをダブルクリックします。
    - Xcode 4.3以降がインストールされている場合は、"Applications"フォルダに移動して、Optionキーを押しながら"Xcode"ファイルをクリックし、パッケージのコンテンツを表示を選択します。表示されるウィンドウで、Contents/Developer/Platforms/iPhoneSimulator.platform/Developer/Applicationsに移動して、"iOS Simulator"ファイルをダブルクリックします。
  - 6 iOS Simulatorで、**Hardware (ハードウェア) > Device (デバイス) > iPad**を選択します。
  - 7 iOS Simulatorで、"Issue Previewer"のアイコンを表示させるため、左にスワイプして、2番目の画面を表示します (必要な場合)。
  - 8 テスト用のアプリが正常にインストールされたことを確認するには、"Issue Previewer"というラベルのアイコンをクリックします。Quark App Studio Issue Previewerアプリが起動します。

## App Studio作品のテスト

Quark App Studio Issue Previewerという名前のアプリを使用して、App Studio作品をテストできます。このアプリはApple App Storeから無料でダウンロードできます。また、Mac OSコンピュータで、iOS Simulatorを使用してこのアプリを実行できます。どちらの場合も、アプリに作品をアップロードする必要があります。

App Studio作品 (.zaveファイル) をテストするには、下記の手順に従ってください。

- 1 App Studio作品 (.zaveファイル) を書き出します。詳細は、「[App Studio作品の作成](#)」を参照してください。
- 2 iOS Simulatorを使用する場合は、テスト用アプリがインストールされていることを確認します。iOS simulatorでQuark App Studio Issue Previewerアプリをインストールする方法は、「[Quark App Studio Issue Previewerのインストール](#)」を参照してください。  
  
iPadを使用する場合は、Apple App Storeから無料のQuark App Studio Issue Previewerをダウンロードします。
- 3 Quark App Studio Issue Previewerアプリを起動します。



Issue Previewerアプリの本棚の画面

- 4 画面の左上のボタンをタップして、**転送を有効にするをオン**に設定します。アプリでURLが表示されます。



Issue Previewerアプリで表示されたアップロードURL

- 5 .zaveファイルがあるコンピュータで、ウェブブラウザを起動して、アプリで表示されたURLを入力します。アップロードページが表示されます。



### Issue Previewerアプリのアップロードページ

- 6 **タイトル**フィールドに作品の名前を入力します（オプション）。
- 7 **ファイル**フィールドをクリックして、.zaveファイルに移動し、**開く**をクリックします。
- 8 作品のコレクション、著者、発行者を指定するには、該当するボタンをクリックします。
- 9 **送信**をクリックします。作品がアプリの本棚にアップロードされます。
- 10 作品を表示するには、作品を1回タップしてから、**読む**をタップします。
  - iOS Simulatorで横モードから縦モードに切り替えるには、**Hardware（ハードウェア） > Rotate Left（左に回転）**または**Hardware（ハードウェア） > Rotate Right（右に回転）**を選択します。
  - レイアウトモードで拡大するには、ピンチアウトジェスチャーを使用します。iOS Simulatorでは、Optionを押しながら作品をクリックしてドラッグすると、この動作ができます。
  - リフロービューからレイアウトモードに切り替えるには、画面の上部にあるボタンを使用します。
- 11 作品を本棚から削除するには、右上の**Edit（編集）**ボタンをタップして、作品の角にある黒いXをタップします。通常モードに戻るには、**終了**をタップします。

# App Studioアプリの作成

App Studio Factoryアプリケーションを使用すると、独自のカスタマイズを行ったiPadアプリを簡単に作成して書き出しできます。

各App Studioアプリは、アプリテンプレートがベースになります。さまざまな種類のApp Studioアプリ用に、さまざまなアプリテンプレートがあります。たとえば、あるテンプレートでは、長期間、定期的に顧客がコンテンツをダウンロードできる雑誌アプリを作成できます。別のテンプレートでは、1つのコンテンツをアプリ内に埋め込み、他のコンテンツを購入する機能は付けないようにできます。

テスト用の場合は、アプリテンプレートを自由に使用できます。ただし、App Storeに申請する最終版のアプリをアプリテンプレートを使用して作成する前に、アプリテンプレートライセンスを購入する必要があります。アプリテンプレートを購入するまでは、作成したApp Studioアプリはテスト用コンテンツの表示しかできません。App Studioパブリッシングポータルで登録済みのiPadやiOS Simulatorのインスタンス上でも同様です。

詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのデバイスの登録](#)」および「[App Studioアプリテンプレートライセンスの購入](#)」を参照してください。

➡ App Studio Frameworkを使用して独自のApp Studioアプリを開発することもできます。

## App Studioパブリッシングポータルでのデバイスの登録

iOS SimulatorやiPadでApp Studioアプリをテストする前に、App Studioパブリッシングポータルで、iOS SimulatorのインスタンスやiPadを登録する必要があります。これを行うには、2つの方法があります。

### Quark App Studio Issue Previewerでの登録

Quark App Studio Issue Previewerを使用してデバイスまたはiOS Simulatorのインスタンスを登録するには、下記の手順に従ってください。

- 1 iPadまたはiOS Simulatorでアプリを起動します。詳細は、「[Quark App Studio Issue Previewerのインストール](#)」を参照してください。
- 2 **テスター**タブをクリックします。
- 3 App Studioパブリッシングポータルでログイン情報とパスワードを入力します。
- 4 **接続**をクリックします。

App StudioのポータルでデバイスまたはiOS Simulatorのインスタンスの登録が完了したら、そのデバイスまたはインスタンスを使用してApp Studioアプリと作品をテストできます。

### App Studioパブリッシングポータルでの登録

App Studioパブリッシングポータルでデバイスを登録するには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://appstudio.quark.com>に移動して、ログインします。
- 2 **プロフィール**をクリックします。**プロフィール**画面が表示されます。
- 3 **テスト用デバイス**をクリックします。**テスト用デバイス**ペインが表示されます。
- 4 **デバイスの追加**をクリックして、iPadのUDIDを入力し、**プラットフォーム**の下にあるAppleのアイコンをクリックして、**追加**をクリックします（詳細は、<http://support.apple.com/kb/HT4061>を参照してください）。
- 5 **更新**をクリックします。

App Studioのポータルでデバイスの登録が完了したら、そのデバイスを使用してApp Studioアプリと作品をテストできます。

### App Studioアプリの作成

通常、App Studioアプリは下記のプロセスで作成します。

- 1 アプリのリソースを作成します。これらのリソースは、各アプリに独自の外観とブランドを提供する画像ファイルです。
- 2 App Studio Factoryでアプリを作成します。

これらのステップについての詳細は、下記のトピックで説明します。

- ➡ 便宜上、App Studio FactoryにはMac OS用とWindows用の両方のアプリケーションフォルダがあります。ただし、App Studio Factoryが動作するのはMac OSコンピュータのみです。

### AppleへのApp Studioアプリの申請準備

AppleにApp Studioアプリを申請する準備の一般的なプロセスは、下記のとおりです。

- 1 Apple iOSデベロッパアカウントを作成します。
- 2 iPadのデバイスIDを取得します。
- 3 iOS開発証明書を作成します。
- 4 iPadをテストで使用できるように登録します。
- 5 アプリIDを作成します。
- 6 開発プロビジョニングプロファイルを作成します。
- 7 App Store配布プロビジョニングプロファイルを作成します。
- 8 アプリの説明を作成します。

以下のトピックで、このプロセスについて詳細に説明します。詳細は、『iTunes Connect デベロッパガイド』を参照してください。 [itunesconnect.apple.com](http://itunesconnect.apple.com)でAppleデベロッパ向けに公開されています。

### デベロッパアカウントの作成

作業を開始する前に、Apple iOSデベロッパアカウントを作成する必要があります。これを行うには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://developer.apple.com/programs/ios/>に移動して、**Enroll Now (今すぐ登録)** をクリックします。
- 2 **Continue (続ける)** をクリックし、画面の指示に従って操作します。個人または企業として登録するように求められたら、適切な選択肢を選択します。
- 3 [itunesconnect.apple.com](http://itunesconnect.apple.com)に移動して、**Contracts, Tax, and Banking (契約、税金、銀行)** をクリックし、AppleとのiOS® Paid Applications contract (有料アプリケーションに関する契約) を締結します。アプリや作品に課金する場合は、Apple App Storeにアプリを申請する前に、この契約に効力があり、有効な銀行情報が入力されている必要があります。

### iPadのデバイスIDの取得

iPad上でアプリをテストするには、iPadのデバイスID (UDID) を指定する必要があります。このための方法の1つは、Issue Previewerです (詳細は、「[Quark App Studio Issue Previewerでの登録](#)」を参照してください)。ここでは、iPadのUDIDを取得するもう1つの方法について説明します。

- 1 iPadをコンピュータに接続します。
- 2 iTunes 7.7以降を起動します。
- 3 iTunesでiPadを選択します。
- 4 **シリアル番号ラベル**をクリックします。ラベルが**識別子 (UDID)** になります。

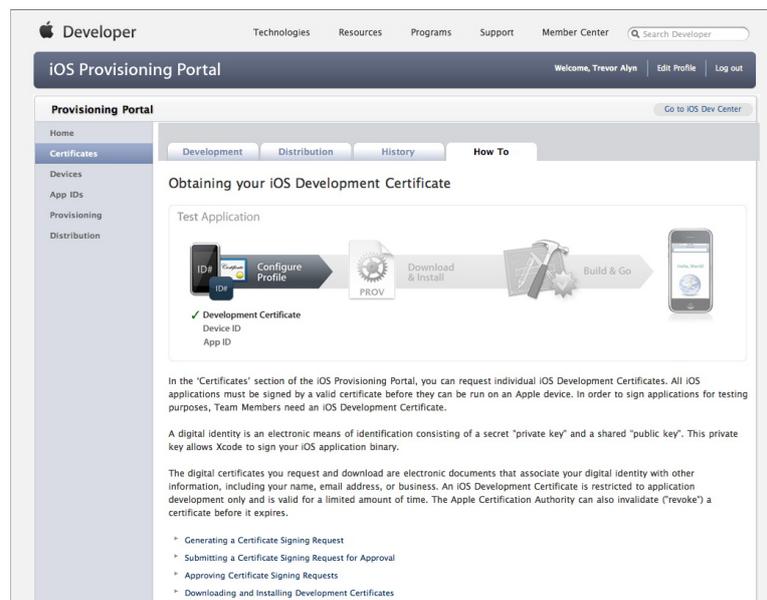


- 5 Command+Cを押して、デバイスIDをクリップボードにコピーします。
- 6 デバイスIDをテキストファイルにペーストします。デバイスIDは数字と小文字の文字列の両方が使用されている非常に長いコードですが、ハイフンやその他の文字はありません。

## iOS開発証明書の作成

アプリを開発してiPad上でそのアプリをテストするには、iOS開発証明書が必要です。この証明書を作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://developer.apple.com/devcenter/ios/>に移動して、ログインします。
- 2 サイドバーのiOS Developer Program (iOSデベロッパプログラム) で、iOS Provisioning Portal (iOSプロビジョニングポータル) をクリックします。
- 3 左側にあるサイドバーで、Certificates (証明書) をクリックします。
- 4 How To (方法) タブをクリックします。Obtaining your iOS Development Certificate (iOS開発証明書の取得) 画面が表示されます。

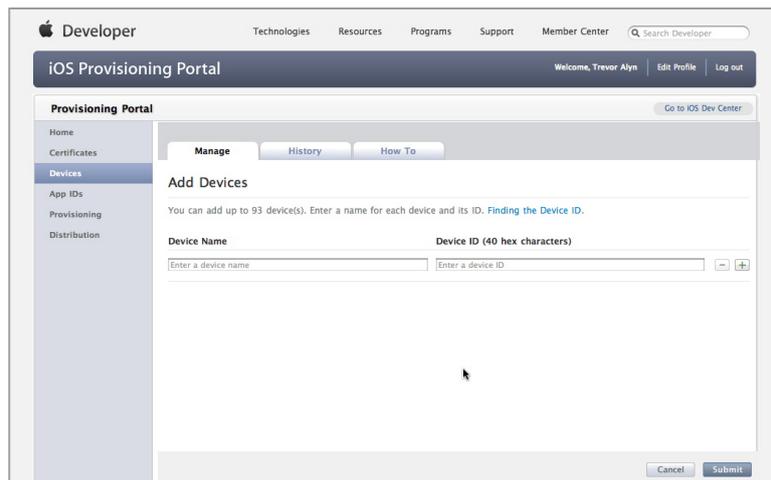


- 5 Generating a Certificate Signing Request (証明書署名要求の生成)、Submitting a Certificate Signing Request for Approval (証明書署名要求の承認申請)、Approving Certificate Signing Requests (証明書署名要求の承認) および Downloading and Installing Development Certificates (開発証明書のダウンロードとインストール) の各画面の指示に従って操作します。

## デバイスの登録

アプリをApp Storeで公開するまでは、アプリは、実行用に登録されたデバイスのみで実行できます。テスト用のiPadを登録するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、Devices (デバイス) をクリックします。
- 2 Add Devices (デバイスの追加) をクリックします。Add Devices (デバイスの追加) 画面が表示されます。

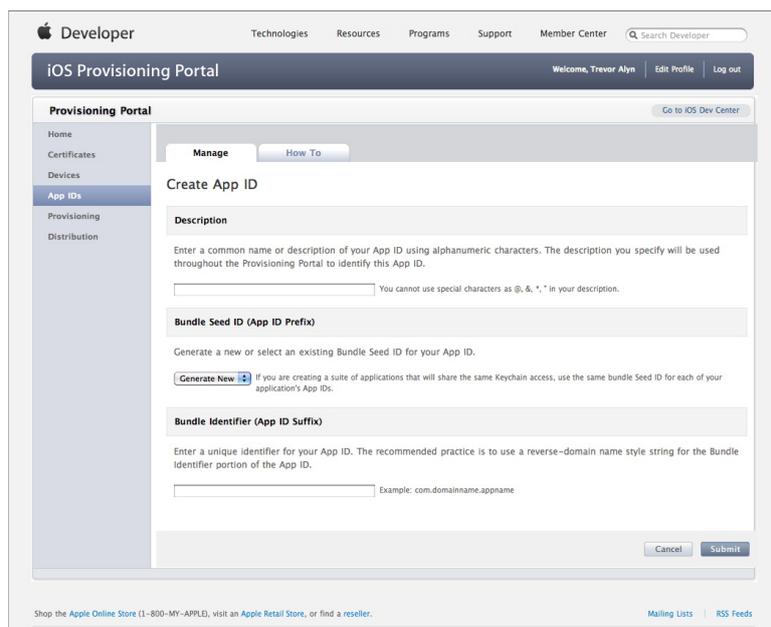


- 3 **Device Name (デバイス名)** フィールドに、iPadの名前を"Jane's iPad"のように入力し、**Device ID (デバイスID)** フィールドに、iPadのUDIDをペーストします。
- 4 デバイスを追加するには、**Device ID (デバイスID)** フィールドの右にある+ボタンをクリックします。
- 5 **Submit (送信)** をクリックします。

### アプリIDの作成

それぞれのアプリには、固有のIDが必要です。アプリIDを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、**App IDs (アプリID)** をクリックします。**App IDs (アプリID)** 画面が表示されます。
- 2 **New App ID (新規アプリID)** をクリックします。**Create App ID (アプリIDの作成)** 画面が表示されます。



- 3 **Description (説明)** フィールドにアプリの名前を入力します。この名前は、App Storeでアプリに対して表示される名前ではありません。
- 4 **Bundle Seed ID (App ID Prefix) (バンドルシードID (アプリIDの接頭辞))** ドロップダウンメニューは、**Generate New (新規に生成)** のままで設定します。
- 5 **Bundle Identifier (App ID Suffix) (バンドルID (アプリIDの接尾辞))** フィールドには、`com.[企業名].[アプリ名]`の形式で、アプリの固有のIDを入力します。たとえば、アプリが123 Productions向けに作成されている場合は、バンドルIDは `com.123productions.123magazine` のようになります。

➡ バンドルIDでは、大文字と小文字が区別されます。

- 6 **Submit (送信)** をクリックします。

### プッシュ通知の設定

プッシュ通知を使用すると、出版物の新しいコンテンツが入手可能になったときに顧客に通知できます。

➡ この手順をすべて行ってからプロビジョニングプロファイルを作成します（詳細は、このトピックの後の2つのトピックを参照してください）。

プッシュ通知を設定するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、**App IDs (アプリID)** をクリックします。**App IDs (アプリID)** 画面が表示されます。
- 2 通知を有効にするアプリの名前をクリックします。**Configure App ID (アプリIDの設定)** ページが表示されます。
- 3 **Enable for Apple Push Notification Service (Appleプッシュ通知サービスを有効にする)** をオンにします。
- 4 **Production Push SSL Certificate (本番用プッシュSSL証明書) のConfigure (設定)** ボタンをクリックします（開発用のプッシュSSL証明書は必要はありません）。**Apple Push Notification Service SSL Certificate Assistant (Appleプッシュ通知サービスSSL証明書アシスタント)** 画面が表示されます。
- 5 画面の指示に従います。指示に従って証明書署名要求を作成し、**Apple Push Notification Service SSL Certificate Assistant (Appleプッシュ通知サービスSSL証明書アシスタント)** 画面でその証明書署名要求をアップロードします。次に、Apple Push Notification Service SSL certificate (Appleプッシュ通知サービスSSL証明書) をダウンロードします。このファイルは、"aps\_production\_identity.cer"のような名前です。
- 6 証明書ファイルをダブルクリックして、インストールします。
- 7 Applications (アプリケーション) > Utilities (ユーティリティ) からKeychain Accessアプリケーションを起動して、左側のリストの**My Certificates (証明書)** をクリックします。証明書のリストが表示されます。
- 8 **Apple Production iOS Push Services (Apple本番用iOSプッシュサービス)** という名前の証明書を展開します。鍵のアイコンが表示されます。

- 9 Apple Production iOS Push Services (Apple本番用iOSプッシュサービス) と、鍵のアイコンのある行を両方とも選択します。
  - 10 選択した2つの行をCtrlキーを押しながらクリックして、**Export 2 items (2つのアイテムを書き出し)** を選択します。次に、アイテムをPFX (.p12) 形式で、`server_certificates_bundle_sandbox.p12`という名前で保存します。パスワードは入力しないでください。ダイアログボックスが表示され、Keychain Accessで鍵を書き出すことが通知された場合は、ログインパスワードを入力して、**Allow (許可)** をクリックします (この動作を2回行う場合もあります)。
  - 11 `server_certificates_bundle_sandbox.p12` ファイルを"temp"という名前のフォルダに配置します。
  - 12 Applications (アプリケーション) > Utilities (ユーティリティ) からTerminalアプリケーションを起動します。**Terminal (ターミナル)** ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、`cd`という文字に続けてスペースを入力します。
  - 13 "temp"フォルダを**Terminal (ターミナル)** ウィンドウにドラッグします。"temp"フォルダのパスが自動的に挿入されます。
  - 14 **Terminal (ターミナル)** ウィンドウのタイトルバーをクリックしてウィンドウがアクティブであることを確認してから、Returnキーを押します。
  - 15 **Terminal (ターミナル)** ウィンドウに下記のコマンドを入力して、最後にReturnキーを押します。

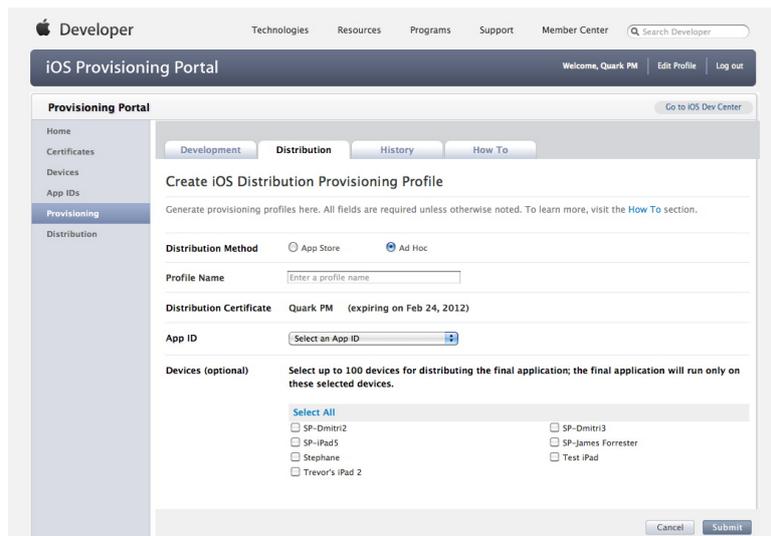
```
openssl pkcs12 -in server_certificates_bundle_sandbox.p12 -out server_certificates_bundle_sandbox.pem -nodes -clcerts
```

`Enter Import Password (パスワードを入力してください)` という文言が表示されます。
  - 16 Returnキーを押します。`MAC verified OK (MAC確認OK)` という文言が表示されます。
  - 17 Terminalアプリケーションを終了します。
  - 18 "temp"フォルダを開き、"`server_certificates_bundle_sandbox.pem`"という名前のファイルを見つけます。このファイルをすぐ使えるようにしておきます。後でこのファイルが必要になります (詳細は、「[App Studioアプリの登録](#)」を参照してください)。
- ➡ 自動継続型購読に必要な手順は、このほかにもいくつかあります。これらの手順は以降のトピックで説明します。

### Ad Hoc用プロビジョニングプロファイルの作成

実際のiPadでアプリを実行するには、Ad Hoc用プロビジョニングプロファイルが必要です。Ad Hoc用プロビジョニングプロファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、**Provisioning (プロビジョニング)** をクリックします。
- 2 **Distribution (配布)** タブをクリックします。
- 3 **New Profile (新規プロファイル)** をクリックします。
- 4 **Distribution Method (配布方法)** で、**Ad Hoc**をクリックします。

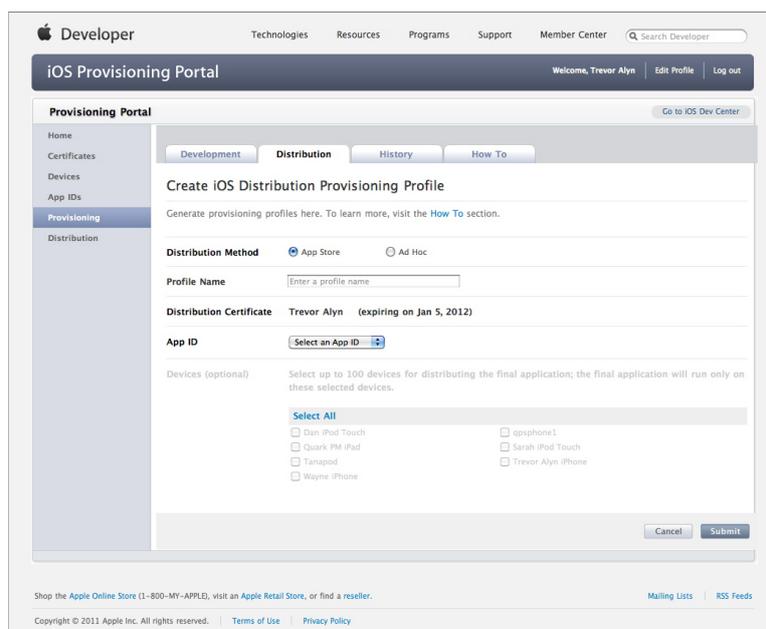


- 5 **Profile Name (プロファイル名)** フィールドに、" [アプリ名] Ad Hoc Provisioning Profile"と入力します。
- 6 **App ID (アプリID)** ドロップダウンメニューから、アプリのアプリIDを選択します
- 7 **Submit (送信)** をクリックします。**Distribution Provisioning Profiles (配布プロビジョニングプロファイル)** 画面が表示されます。
- 8 Ad Hoc用プロビジョニングプロファイルをダウンロードする前に、ページをリロードする必要があります。ページをリロードすると、**Download (ダウンロード)** ボタンで、作成した配布プロビジョニングプロファイルを入手できるようになります。
- 9 **Download (ダウンロード)** をクリックして、配布プロビジョニングプロファイルをデスクトップにダウンロードします。このファイルは、"App\_Name\_Ad\_Hoc\_Provisioning\_Profile.mobileprovision"のような名前です。
- 10 ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、インストールします。

### App Storeプロビジョニングプロファイルの作成

App Storeに申請するアプリを作成するには、App Store配布プロビジョニングプロファイルが必要です。App Storeプロビジョニングプロファイルを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 左側にあるサイドバーで、**Provisioning (プロビジョニング)** をクリックします。
- 2 **Distribution (配布)** タブをクリックします。
- 3 **New Profile (新規プロファイル)** をクリックします。
- 4 **Distribution Method (配布方法)** で、**App Store**をクリックします。



- 5 **Profile Name (プロフィール名)** フィールドに、"App Studio Dist Provisioning Profile"と入力します。
- 6 **App ID (アプリID)** ドロップダウンメニューから、アプリのアプリIDを選択します
- 7 **Submit (送信)** をクリックします。**Distribution Provisioning Profiles (配布プロビジョニングプロファイル)** 画面が表示されます。
- 8 配布プロビジョニングプロファイルをダウンロードする前に、ページをリロードする必要があります。ページをリロードすると、**Download (ダウンロード)** ボタンで、作成した配布プロビジョニングプロファイルを手に入れるようになります。
- 9 **Download (ダウンロード)** をクリックして、配布プロビジョニングプロファイルをデスクトップにダウンロードします。このファイルは、"App\_Studio\_Dist\_Provisioning\_Profile.mobileprovision"のような名前です。
- 10 ダウンロードしたファイルをダブルクリックして、インストールします。

### *iTunes Connect*でのアプリの説明の作成

Appleにアプリを申請する前に、Appleのデベロッパ向けウェブサイトでそのアプリの説明を作成する必要があります。

- ➡ コンテンツを販売する場合は、下記の手順を行う前にアプリ内での購入を作成する必要があります。詳細は、「[アプリ内での購入の設定](#)」および「[自動継続型購読の設定](#)」を参照してください。

アプリの説明を作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 <http://itunesconnect.apple.com>に移動して、ログインします（必要な場合）。**iTunes Connect**の画面が表示されます。
- 2 **Manage Your Applications (アプリケーションの管理)** をクリックします。**Manage Your Apps (アプリの管理)** 画面が表示されます。

- 3 **Add New App (新規アプリの追加)** をクリックします。**App Information (アプリの情報)** 画面が表示されます。
- 4 **App Name (アプリ名)** フィールドに、App Storeで表示させるアプリの名前を入力します。
- 5 **SKU Number (SKU番号)** フィールドに、アプリを識別するために使用できる、固有の値を入力します。
- 6 **Bundle ID (バンドルID)** ドロップダウンメニューから、アプリのIDを選択します (このIDが、「[アプリIDの作成](#)」で作成したApp ID (アプリID) です)。**Xcode: Wildcard AppID - \***は選択しないでください。
- 7 **Continue (続ける)** をクリックします。公開開始日と価格帯の画面が表示されます。画面の指示に従って、アプリの価格と公開開始日を設定します。アプリをできるだけ早くアップロードする場合は、現在の日付を選択できます。
- 8 **Continue (続ける)** をクリックします。メタデータとレーティングの画面が表示されます。この画面のフォームをすべて入力します。
- 9 コンテンツに課金する場合、アプリ内での購入をアプリと関連付ける必要があります。このためには、**In-App Purchases (アプリ内での購入)** 領域で**Edit (編集)** をクリックして、アプリと関連付けるアプリ内での購入をすべてオンにしてから**Save (保存)** をクリックします。
- 10 **Uploads(アップロード)**領域で、**Large 512x512 Icon (大512x512のアイコン)** と表記されている場所に、512 x 512ピクセルのPNGファイルをアップロードします。また、**iPad Screenshots (iPadのスクリーンショット)** と表記されている場所に、ダミーのスクリーンショットをアップロードします。これらの画像は、どちらも後で変更できます。
- 11 **Ready to Upload Binary (バイナリのアップロード準備完了)** をクリックします。

### App Studio Factoryでのアプリの作成

App Studio Factoryは、プログラミングを行わずにApp Studioアプリを作成できる、Mac OS (10.6以降) 用のアプリケーションです。App Studioでアプリを作成する前に、App Studioアプリ証明書ファイルが必要です。詳細は、「[App Studioアプリ証明書のダウンロード](#)」を参照してください。

また、Xcode 4.0以降もインストールする必要があります。Xcodeは、Appleの開発者向けウェブサイト <http://developer.apple.com> から無料で入手できます。

App Studio Factoryでアプリを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 App Studio Factoryを起動します (QuarkXPressアプリケーションフォルダ内にあります)。App Studio Factoryウィンドウが表示されます。



### App Studio Factoryウィンドウ

- App Studioアプリテンプレートによって、アプリの機能と全般的なレイアウトが決まります。たくさんのさまざまなアプリテンプレートから選択できます。アプリテンプレートの説明を参照するには、ウィンドウの上部にあるアイコンをクリックします。使用するアプリテンプレートがわかっている場合は、そのアプリテンプレートを選択してから**選択**をクリックします。
- 作成するアプリを認証するために、App Studioアプリ証明書を左下の領域にドラッグします（詳細は、「[App Studioアプリ証明書のダウンロード](#)」を参照してください）。この操作によって、バンドルIDなど、アプリの、複数のApp Studio Factoryのフィールドが自動的に入力されます。
- デバイスでアプリを示すアイコンを指定するには、フラットの72×72ピクセルRGB PNG ファイルを**アイコン**フィールドにドラッグします。
- 左側にある**セクション**リストには、カスタマイズ可能な各種のアプリ情報のエントリがあります。セクションをクリックすると、そのセクション内のすべての設定可能な要素が、右側にある**設定**領域に表示されます。これらの各セクションを1つずつクリックして、自由にカスタマイズします。

画像の場合は、虫眼鏡のアイコンをクリックすると、大きなプレビューを表示できます。画像を置き換えるには、代わりのPNGファイルをApp Studio Factory内の画像上にドラッグするだけです。各画像で必要なサイズ（ピクセル）は、画像の下に表示されます。

  - ➡一部のフィールドは編集できません。たとえば、**バンドルID**の値は、証明書によって決まります。これは意図的なものです。
  - ➡アプリのアイコンフィールドのアイコンは、テンプレートの条件に合わせて自動的に縮小されます。必要に応じて、このアイコンを最適なアイコンと置き換えることができます。
  - ➡**セクション**リストですべてのアイテムを選択すると、アプリのすべてのフィールドとリソースを表示できます。
- 埋め込みコンテンツを使用するアプリを作成する場合は、**セクション**リストに**AVEのコンテンツ**というエントリがあります。埋め込むコンテンツを、**AVEファイル (.zave)**領域上にドラッグします。

AVEの証明書ファイルを取得するには、App Studio Publishing Portalにログインして、**発行**をクリック、そのコンテンツが属しているタイトルまたはコレクションを選択、コンテンツの隣にある鉛筆のアイコンをクリック、**ダウンロードペイン**をクリック、**AVE証明書のダウンロード**をクリックの順に操作します。ファイルがダウンロードされたら、そのファイルを**AVE証明書**領域上にドラッグします。

- 一部のテンプレートでは、複数の言語に翻訳された文字列を使用できます。アプリ内に複数の言語を収容するには、左上の**ローカリゼーション**をクリックして、アプリ内に収容する言語をオンにします。オペレーティングシステムがこれらの言語のいずれかと一致している場合、アプリにはその言語の文字列が表示されます。
  - たとえば、フランス語のリソースがアプリに収容されていても、コンテンツをフランス語版で入手できない場合は、顧客は不満に感じるでしょう。このため、販売するコンテンツの言語と一致する言語のみをオンにします。
- iOS Simulatorアプリケーションでアプリをテストするには、**Simulatorに書き出し**をクリックします。
  - 詳細は、「[App Studio作品のテスト](#)」を参照してください。
- iOS Simulatorでは、アプリを使用してコンテンツを表示できますが、App Storeから価格データを取得することはできません。このため、コンテンツの価格がiTunes Connectで設定した価格と一致しない可能性があります。

iPadでのテスト用またはAppleへの申請用にアプリを書き出す方法の詳細は、「[App Studio Factoryでのアプリの書き出し](#)」を参照してください。

## App Studioアプリテンプレートライセンスの購入

最終版のアプリを作成してApple App Storeに申請する前に、アプリの作成に使用したアプリテンプレートの種類に応じたライセンスを購入する必要があります。アプリの種類に応じたテンプレートを購入するには、下記の手順に従ってください。

- App Studio Factoryで、アプリ証明書の上の、メインウィンドウの左下にある購入ボタンをクリックします。デフォルトのウェブブラウザで、該当するページが開きます。
- 画面の指示に従って、使用するアプリテンプレートの種類に応じたライセンスを購入します。購入手続きが完了すると、シリアル番号が提供されます。
- Quark App Studioパブリッシングポータル (<http://appstudio.quark.com>) にログインして、**アプリ**をクリックします。**アプリの仕様**画面が表示されます。
- 左側のリストのアプリをクリックします。
- このアプリのテンプレートの、アプリテンプレートを追加**をクリックします。ストア画面が表示されます。
- フィールドにシリアル番号を入力して、**入力**をクリックします。
- OK**をクリックします。アプリ証明書がポータルでアップデートされます。
- アップデートされたアプリ証明書をダウンロードして、インストールします（詳細は、「[App Studioアプリ証明書のダウンロード](#)」および「[App Studio Factoryでのアプリの作成](#)」を参照してください）。

- 9 アプリを書き出します。詳細は、「[App Studio Factoryでのアプリの書き出し](#)」を参照してください。

### App Studio Factoryでのアプリの書き出し

App Studio Factoryからアプリを書き出す場合、iPadでのテスト用に書き出すか、または、Appleへの申請用に書き出すことができます。

プロセスを開始するには、**デバイスに書き出し**をクリックします。**新規保存**ダイアログボックスが表示されます。

iPadでのテスト用に書き出す場合は、下記の操作を行ってください。

- **設定**ドロップダウンメニューから**リリース**を選択します。
- **プロファイル**ドロップダウンメニューから、Ad Hoc用プロビジョニングプロファイルを選択します（詳細は、「[Ad Hoc用プロビジョニングプロファイルの作成](#)」を参照してください）。
- **証明書**ドロップダウンメニューから、適切なApp Studioアプリ証明書を選択します。

**保存**をクリックすると、App Studio Factoryで、接尾辞が.ipaのファイルを含むフォルダが作成されます。iPadにアプリをインストールするには、.ipaファイルをドックのiTunesアイコンにドラッグして、iPadとiTunesを同期します（または、iPhone構成ユーティリティを使用できます。詳細は、

<http://www.apple.com/support/iphone/enterprise/>を参照してください）。

- ➡ テスト用にiPadを登録しないと、アプリはiPad上で動きません。詳細は、「[デバイスの登録](#)」を参照してください。

Apple App Storeへの申請用に書き出す場合は、下記の操作を行ってください。

- **設定**ドロップダウンメニューから**配信**を選択します。
- **プロファイル**ドロップダウンメニューから、App Storeプロビジョニングプロファイルを選択します（詳細は、「[App Storeプロビジョニングプロファイルの作成](#)」を参照してください）。
- **証明書**ドロップダウンメニューから、適切なApp Studioアプリ証明書を選択します。

**保存**をクリックすると、App Studio Factoryで、接尾辞が.ipaのファイルが作成されます。Appleにこのファイルを申請する方法の詳細は、「[Appleへのアプリの申請](#)」を参照してください。

### App Studioアプリのテスト

アプリとApp Studioコンテンツの作成が終了したら、iPad（所有している場合）、またはMac OS 10.6.6以降のMac OSコンピュータで、アプリとコンテンツのテストを行うことができます。

- ➡ コンテンツのテストを行う前に、テストに使用するデバイスまたはiOS Simulatorを登録する必要があります。（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのデバイスの登録](#)」を参照してください）。

- ➡ 必ず実際のデバイスでアプリをテストしてからアプリを申請してください。実際のデバイスでの動作がiOS Simulatorでの動作と異なる場合がよくあります。
- ➡ アプリを実行してコンテンツをテストする方法は、「[App Studio作品のテスト](#)」を参照してください。

### iPadへのApp Studioアプリのインストール

iPadでアプリと作品をテストするには、下記の手順に従ってください。

- 1 App Studio Factoryを使用して、.ipaファイルを生成します。詳細は、「[App Studioアプリの作成](#)」を参照してください。
  - 2 Mac OSのFinderで、.ipaファイルをiTunesのアイコン上にドラッグします。この動作は、iPadと同期済みのiTunesで行う必要があります。
  - 3 iPadとiTunesを同期します。これで、iPadにアプリがインストールされます。
- ➡ または、iPhone構成ユーティリティを使用できます。詳細は、<http://www.apple.com/support/iphone/enterprise/>を参照してください。

### iOS SimulatorでのApp Studioアプリのテスト

iOS Simulatorアプリケーションでアプリと作品をテストするには、下記の手順に従ってください。

- 1 Mac OS® 10.6.6以降が稼働していることを確認します。
- 2 Xcode® 4.0以降をダウンロードしてインストールします。Xcodeは、<http://developer.apple.com/xcode/index.php>でダウンロードできます。
- 3 App Studio Factoryで、アプリのプロジェクトを開き、**Simulatorに書き出し**をクリックします。iOS Simulatorでアプリが開きます。

# App Studio作品の管理

App Studio作品のテストを行い、App Studioアプリを所有している顧客がその作品を使用できるようにするには、下記の手順に従ってください。

- 1 公開されているウェブサーバーに作品をアップロードして、そのサーバーのURLを取得します。このURLは、.zaveファイルの名前で終わるダイレクトURLにする必要があります。リダイレクトURLでは機能しません。ホスティングプロバイダーに依頼して、.zaveファイルを提供できるようにサーバーMIMEタイプの設定を調整する必要があります。
- 2 App Studioパブリッシングポータルでアカウントを作成します。
- 3 App Studioパブリッシングポータルでタイトルまたはコレクションのエントリを作成します。雑誌の作品を作成する場合は、雑誌の名前を使用するタイトルを作成します。書籍を作成する場合は、出版社やシリーズ名など、ブックコレクションを識別するコレクションを作成します。
- 4 App Studioパブリッシングポータルでアプリを登録します。これで、App Studio作品とApp Studioアプリが関連付けられます。
- 5 発行に必要なApp Studioテンプレートのライセンスを購入します。
- 6 App Studioパブリッシングポータルで、作品用のライセンスを購入します。

最初のステップとして、ウェブホスティングサービスは、ダイレクトURLで作品ファイルをアップロードできるものであれば、自由に選択できます。以下のトピックでは、残りのステップについて説明します。

## App Studioパブリッシングポータルのアカウントの作成

App Studio作品を顧客が入手できる用に使用前に、App Studioパブリッシングポータルでアカウントを作成する必要があります。アカウントの作成には料金はかかりません。App Studioパブリッシングポータルのアカウントを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウェブブラウザで、<http://appstudio.quark.com>に移動します。App Studioパブリッシングポータルのログインページが表示されます。
- 2 **アカウントをお持ちですか?**をクリックし、画面の指示に従って操作します。

## App Studioアプリの登録

- ➡ App Studio Publishing PortalでApp Studioアプリを登録する前に、App Studio Publishing Portalのアカウントの作成（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルのアカウントの作成](#)」を参照してください）、およびタイトルまたはコレクションの作成

が必要です（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成](#)」を参照してください）。

App Studioコンテンツをテストして顧客が入手できるようにするには、最初にApp Studio Publishing PortalでApp Studioアプリを登録する必要があります。これで、App StudioコンテンツとApp Studioアプリが関連付けられます。アプリを登録するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウェブブラウザで、<http://appstudio.quark.com>に移動します。ログイン情報とパスワードを入力して、ポータルにログインします。ホームページが表示されます。
  - 2 まだタイトルやコレクションを作成していない場合は、タイトルまたはコレクションを作成します。詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成](#)」を参照してください。
  - 3 まだiTunes Connectでアプリを作成していない場合は、iTunes Connectでアプリを作成します。詳細は、「[iTunes Connectでのアプリの説明の作成](#)」を参照してください。
  - 4 **アプリの仕様を管理**で、**入力**をクリックします。**アプリの仕様ウィザード**ページが表示されます。
  - 5 **アプリの仕様の名前**フィールドで、アプリの名前を入力します。この名前は、このサイト、App Studio Factory、およびエンドユーザーのデバイスで表示されます。この名前に使用できる文字数は、使用する文字によって異なります。通常は12文字以下にします。
  - 6 **バンドルID**名に、Appleの開発者向けウェブサイトですべてのアプリに対して作成したバンドルIDを入力します。詳細は、「[アプリIDの作成](#)」を参照してください。
- ➡ アプリIDとバンドルIDでは、大文字と小文字が区別されます。
- 7 **ローカライズした名前と説明**領域で、**追加**をクリックして、特定の言語で、このアプリの名前と説明を追加します。他の言語での名前と説明は、必要な数だけ追加できます。
  - 8 **アプリのアイコン**フィールドに、PNG形式またはJPEG形式でサイズが72 x 72ピクセルの画像をアップロードします。このアイコンはデバイスで表示されます。
  - 9 プッシュ通知を使用する場合は、**通知用証明書を追加**をクリックしてから**参照**をクリックして、"server\_certificates\_bundle\_sandbox.pem"ファイルをアップロードします（詳細は、「[プッシュ通知の設定](#)」を参照してください）。これで、新しいコンテンツが入手可能になったときにアプリからユーザーへ通知できます。
  - 10 **アプリ証明書のダウンロード**で、証明書のアイコンをクリックします。これで、App Studio Factoryでアプリを作成するために必要なアプリ証明書ファイルがダウンロードされます。
- ➡ まだイシューライセンスやApp Studio Factoryアプリテンプレートライセンスを購入していない場合は、これらのアイテムを購入してから、新しい証明書をダウンロードできます。アプリや発行済みのコンテンツをテストする場合は、ライセンスを購入する必要はありません。詳細は、「[App Studioアプリ証明書のダウンロード](#)」を参照してください。
- 11 コンテンツを書き出せるようにするには、商品を作成する必要があります。詳細は、「[App Studio商品の作成](#)」を参照してください。

- 12 **アプリテンプレートライセンス**で、使用するApp Studio Factoryアプリテンプレートのライセンスを購入できます。すぐに購入できますが、今すぐ購入する必要はありません。アプリテンプレートの詳細は、「[App Studio Factoryでのアプリの作成](#)」を参照してください。
- 13 **OK**をクリックします。アプリの仕様が追加されます。
- 14 **ホーム**をクリックするとホーム画面に戻ります。

### App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成

➡ App Studioパブリッシングポータルでタイトルまたはコレクションを作成する前に、App Studioパブリッシングポータルのアカウントを作成する必要があります（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルのアカウントの作成](#)」を参照してください。）。

App Studioコンテンツを顧客が入手できるようにする前に、最初に、App Studioパブリッシングポータルで対応するタイトルまたはコレクションを作成する必要があります。雑誌のコンテンツを作成する場合は、雑誌の名前を使用したタイトルを作成します。書籍を作成する場合は、出版社やシリーズ名など、ブックコレクションを特定できるコレクションを作成します。タイトルやコレクションを作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウェブブラウザで、<http://appstudio.quark.com>に移動します。ログイン情報とパスワードを入力して、ポータルにログインします。ホームページが表示されます。
- 2 **タイトルとコレクションを管理**で、**入力**をクリックします。**タイトルとコレクション**画面が表示されます。
- 3 サイドバーで、**タイトルまたはコレクションを追加**をクリックします。
- 4 **ID**フィールドで、**[ドメイン].[企業名].[タイトルまたはコレクションの名前]**の構文に従って値を入力します。たとえば、`com.quark.quarkmagazine`のようにします。これが、App StudioタイトルまたはコレクションのIDです。この値を使用して、特定のタイトルと、作成したアプリを関連付けます。
- 5 **タイトルまたはコレクションの名前**フィールドに、タイトルまたはコレクションの名前を入力します。
- 6 **アイコン**フィールドに、PNG形式またはJPEG形式でサイズが128x128ピクセルの画像をアップロードします。
- 7 **言語**ドロップダウンメニューで、発行するタイトルまたはコレクションのメイン言語を選択します。この言語は、アプリやコンテンツの言語と同じである必要はありません。
- 8 **種類**ドロップダウンメニューで、書籍の場合は**コレクション**を選択し、定期的に発行するコンテンツの場合は**タイトル**を選択します。**タイトル**を選択した場合、タイトルをリリースする頻度を指定できます。
- 9 **カテゴリ**領域で、関連するカテゴリを選択します。これらのカテゴリは、検索エンジン最適化のために使用されます。
- 10 **ローカライズした名前と説明**領域で、**追加**をクリックして、特定の言語での、このタイトルまたはコレクションの名前と説明を追加します。他の言語での名前と説明は、必要な数だけ追加できます。

- 11 **コンテンツの種類**領域では、さまざまな価格で販売するための、さまざまなコンテンツの種類を作成できます。たとえば、大部分の雑誌のコンテンツには**デフォルト**のコンテンツの種類を設定し、休暇シーズン時のコンテンツには「ホリデースペシャル」というコンテンツの種類を設定して異なる価格で販売することなどができます。この領域を使用して、必要なコンテンツの種類ごとの名前を作成できます。
- 12 **OK**をクリックします。タイトルまたはコレクションが追加されます。
- 13 **ホーム**をクリックするとホーム画面に戻ります。

## App Studioイシューライセンスの購入

- ➡ イシューライセンスを購入する前に、App Studioパブリッシングポータルアカウントの作成（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルアカウントの作成](#)」を参照してください）、タイトルまたはコレクションの作成（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成](#)」を参照してください）、およびアプリの登録が必要です（詳細は、「[App Studioアプリの登録](#)」を参照してください）。

App Studioコンテンツを顧客が入手できるようにするには、最初にApp Studioパブリッシングポータルで1つまたは複数のイシューライセンスを購入する必要があります。各ライセンスでは、1つのアプリケーションに対してApp Studioコンテンツを発行できます。イシューライセンスを購入するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウェブブラウザで、<http://appstudio.quark.com>に移動します。ログイン情報とパスワードを入力して、ポータルにログインします。ホームページが表示されます。
- 2 **発行用ライセンスの購入**で、**入力**をクリックします。発行用ライセンスストア画面が表示されます。
- 3 **ライセンスのシリアル番号を購入**をクリックします。ストア画面が表示されます。
- 4 **ライセンスのシリアル番号を購入**をクリックします。このリンクによって、Quark eStoreに移動します。ここで、コンテンツやアプリテンプレート用のライセンスを購入できます。画面の指示に従って、App Studioイシューライセンスのシリアル番号を購入します。
- 5 パブリッシングポータルに戻り、**ライセンスのシリアル番号を入力**フィールドにシリアル番号を入力またはペーストして、**入力**をクリックします。
- 6 **OK**をクリックします。
- 7 **ホーム**をクリックするとホーム画面に戻ります。これで、保有しているライセンス数と同じ数のコンテンツを発行できるようになりました。ライセンス数を越えた分は、テスト用のコンテンツのみ発行できます。

## ウェブサーバーへのApp Studio作品のアップロード

アプリをApp Storeに申請する前に、ウェブサーバーに作品をアップロードする必要があります。独自のウェブサーバーを使用できます。または、低料金で他社のウェブサーバーのスペースをレンタルできます。ウェブサーバーに作品をアップロードする手順については、ウェブマスターまたはウェブサーバーのプロバイダーに問い合わせてください。

- ➡ .zaveファイルは、アップロードする前に圧縮しないでください。作品のURLは.zaveで終わる必要があります。

ウェブサーバーに作品をアップロードしたら、各作品のURLが保存されていることを確認します。作品を発行するには、これらのURLが必要です。（詳細は、「[App Studioコンテンツの発行](#)」を参照してください）。

### App Studioコンテンツの発行

- ➡ App Studioコンテンツを顧客が入手できるようにする前に、App Studioパブリッシングポータルアカウントの作成（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルアカウントの作成](#)」を参照してください）、タイトルまたはコレクションの作成（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成](#)」を参照してください）、アプリの登録（詳細は、「[App Studioアプリの登録](#)」を参照してください）、およびイシューライセンスの購入が必要です（詳細は、「[App Studioイシューライセンスの購入](#)」を参照してください）。

- ➡ テスト用のコンテンツを発行する場合は、イシューライセンスを購入する必要はありません。

App Studioコンテンツを発行するには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウェブブラウザで、<http://appstudio.quark.com>に移動します。ログイン情報とパスワードを入力して、ポータルにログインします。ホームページが表示されます。
- 2 **発行**をクリックします。**発行画面**が表示されます。
- 3 **タイトルまたはコレクション**ドロップダウンメニューから、コンテンツを発行するタイトルまたはコレクションを選択します。そのタイトルまたはコレクションのコンテンツがすべて表示されます。
- 4 **新規コンテンツの作成**をクリックします。**コンテンツを追加画面の一般**ペインが表示されます。
- 5 **コンテンツ名**フィールドにコンテンツの名前を入力します。
- 6 **説明**フィールドにコンテンツの説明を入力します。顧客が本棚のアプリまたはニューススタンドのアプリでコンテンツをタップしたときに、プレビュー、価格、概要とともに、この説明がポップアップで表示されます。
- 7 **コンテンツ名**ドロップダウンメニューからコンテンツの種類を選択します。
- 8 コンテンツが連載タイトルの一部の場合は、**コンテンツ番号**フィールドにコンテンツ番号を入力します。
- 9 アプリの**説明**フィールドに見出しを表示するには、**コンテンツの見出し**フィールドに見出しを入力します。右にある+ボタンをクリックして、見出しを追加できます。
- 10 **アップロード**をクリックして**アップロード**ペインを表示します。
  - **コンテンツのサムネール**フィールドで、PNG形式またはJPEG形式の、コンテンツの表紙のサムネール画像をアップロードします。画像の幅と高さは、256ピクセル以下である必要があります。

- **コンテンツのプレビュー**フィールドで、PNG形式またはJPEG形式の、コンテンツの高解像度のプレビュー画像をアップロードします。画像の幅と高さは、1024ピクセル以下である必要があります。
- **コンテンツの概要**フィールドで、PNG形式またはJPEG形式の、コンテンツの概要の画像をアップロードします。この画像は、コンテンツを購入するときに、**概要**ボタンをタップすると表示されます。画像の幅と高さは、1024ピクセル以下である必要があります。

#### 11 リリース情報をクリックして**リリース情報**ペインを表示します。

- **リリース日**フィールドを使用して、対応するアプリを所有しているユーザーにコンテンツを公開する日付を指定します。
- 特定の日付の時点でコンテンツを非公開にする場合は、**終了日**フィールドでその日付を指定します。
- コンテンツをテスト用のコンテンツにして、アプリのテスト版のみで入手できるようにする場合は、**テスト用コンテンツ**をオンにします（イシューライセンスがない場合は、このボックスはオフにできません）。

#### 12 **.Zaveファイル**をクリックして**.Zaveファイル**ペインを表示します。

- **.zaveファイルのURL**フィールドで、.zaveファイルのURLを入力します。このURLは、.zaveファイルの名前で終わるダイレクトURLにする必要があります。
- **マニフェスト**フィールドで、QuarkXPressで.zaveファイルとともに書き出した.zavemファイルをアップロードします。この操作はセキュリティのために必要です。

#### 13 App Studio Frameworkを使用して独自アプリを開発する場合、そのアプリでメタデータを使用するには、**メタデータ**をクリックして**メタデータ**ペインを表示し、適切なメタデータを入力します。

#### 14 OKをクリックします。

- ➡ コンテンツをアプリと関連付けるまで、そのコンテンツはアプリで入手できません。詳細は、「[App Studio商品の作成](#)」を参照してください。
- ➡ コンテンツの公開後に、修正版の作成、コンテンツの再書き出し、サーバー上の.zaveファイルとマニフェストの置き換えを5回まで行えます。それ以上は新しいマニフェストファイルをアップロードすることはできません。

### アプリ内での購入の設定

コンテンツに課金する場合、Appleで各コンテンツにアプリ内購入を設定する必要があります。登録方法の詳細は、『iTunes Connectデベロッパガイド』の「Managing Your In-App Purchases（アプリ内購入の管理）」を参照してください（Apple iOSデベロッパに登録済みの場合、<http://developer.apple.com>で入手できます）。

現時点では、下記のプロセスで行います。

- 1 <http://itunesconnect.apple.com/>に移動して、ログインします（必要な場合）。

- 2 **Manage Your Applications (アプリケーションの管理)** をクリックします。 **Manage Your Apps (アプリの管理)** ページが表示されます。
- 3 アプリをクリックします。アプリのページが表示されます。
- 4 **Manage In-App Purchases (アプリ内購入の管理)** をクリックします。 **In-App Purchases (アプリ内購入)** ページが表示されます。
- 5 **Create New (新規作成)** をクリックします。 **Select Type (種類の選択)** 画面が表示されます。
- 6 作成するアプリ内購入の種類を指定するには、下記のいずれかのボタンをクリックします。
  - **Consumable (消費型)** : このオプションは使用しないでください。
  - **Non-Consumable (非消費型)** : このオプションをクリックすると、単独のコンテンツのアプリ内購入が作成されます。
  - **Auto-Renewable Subscription (自動継続型購読)** : このオプションをオンにすると、自動継続型購読が作成されます。次の画面が表示されます。
- 7 **Reference Name (参照用の名前)** フィールドに、アプリ内購入コンテンツのタイトルと日付を入力します。たとえば、
  - 非消費型のアプリ内購入を作成する場合は、 **123 Magazine - Single Issue** のように入力します。
  - 自動継続型購読のアプリ内購入を作成する場合は、 **123 Magazine Subscription** のように入力します。
- 8 非消費型のアプリ内購入を作成する場合は、 **Product ID (商品ID)** フィールドにバンドルIDを入力します。続けて、コンテンツの名前と日付を入力します。たとえば、 **com.123productions.123magazine.price.issue.default** のように入力します。
- 9 コンテンツの言語 (または複数の言語) を指定するには、 **Add Language (言語の追加)** をクリックし、画面の指示に従って操作します。
- 10 非消費型のアプリ内購入を作成する場合は、 **Cleared for Sale (販売可能)** をオンにして、 **Price Tier (価格帯)** ドロップダウンメニューから、希望する価格帯を選択します (対応する価格リストの場合は、 **View Pricing Matrix (価格表を参照)** をクリックします)。
- 11 自動継続型購読のアプリ内購入を作成する場合は、1つまたは複数の購読期間を指定する必要があります。 **Add Duration (期間を追加)** をクリックし、画面の指示に従って操作します。 **Create New In App Purchase (新規アプリ内購入の作成)** ページが表示されます。
  - **Product ID (商品ID)** フィールドにバンドルIDを入力します。続けて、コンテンツの期間を入力します。たとえば、 **com.123productions.123magazine.6months** のように入力します。
  - **Cleared for Sale (販売可能)** をオンにします。

- **Price Tier (価格帯)** ドロップダウンメニューから、希望する価格帯を選択します（対応する価格リストの場合は、**View Pricing Matrix (価格表を参照)** をクリックします）。

**12 Screenshot for Review (審査依頼用スクリーンショット)** 領域で、**Choose File (ファイルを選択)** をクリックして、iPadで表示されるアプリのコンテンツの外観のスクリーンショットをアップロードします。この画像は審査のみに使用される画像です。App Storeで表示される画像ではありません。

➡ このスクリーンショットは後で変更できます。

**13 保存** をクリックします。

➡ コンテンツが承認された後にコンテンツの価格を変更する場合は、対応するアプリ内購入の価格を変更します。Appleでは、変更に対する審査は必要ありません。

### 新規アプリ内購入の追加

承認済みのアプリに対して新規アプリ内購入を作成するには、Appleにアプリ内購入の審査を申請する必要があります。申請のプロセスは下記のとおりです。

- 1 App Studio Publishing Portalでコンテンツを作成します。
  - 2 商品に移動して、商品の**State (状態)** を**In Review (審査中)** に設定します（コンテンツの状態は、Appleでテストできるように、**In Review (審査中)** になっている必要があります）。
- ➡ このステップは、単独コンテンツの場合も購読の場合も必須です。
- 3 Appleにアプリ内購入を申請します。
  - 4 アプリ内購入に対してAppleの承認が得られたら、商品に移動して、コンテンツの**State (状態)** を**In Review (審査中)** から**Ready For Sale (販売可能)** に変更します。

### 自動継続型購読の設定

一部のApp Studioアプリテンプレートでは、ユーザーがApp Studioのコンテンツに対して自動継続型購読を購入できます。顧客は、アプリ内でサムネールをタップすることによって個々のコンテンツを購入します。ただし、購読権を購入する場合は、アプリ内の"Subscriptions (購読)"ボタンをタップします。

➡ コンテンツを購読権の一部として提供するには、単独コンテンツの購入として提供する必要があります。

App Studioアプリで自動継続型購読の販売を行う場合は、最初にAppleのデベロッパ向けウェブサイトでも共有秘密鍵を作成してから、必要な自動継続型購読を設定する必要があります。設定方法の詳細は、『iTunes Connectデベロッパガイド』の「Creating Auto-Renewable Subscriptions (自動継続型購読の作成)」を参照してください（Apple iOSデベロッパに登録済みの場合、<http://developer.apple.com>で入手できます）。

購読に対応した商品を作成するには、共有秘密鍵が必要です。詳細は、「[App Studio商品の作成](#)」を参照してください。

### App Studio商品の作成

App Studioコンテンツを発行したら、そのコンテンツの種類を、コンテンツを購入できるアプリ（または複数のアプリ）にリンクする必要があります。

App Studioパブリッシングポータルでは、商品とは、アプリと、タイトルのコンテンツの種類ごとのリンクです。商品を作成すると、選択した種類の、対応するタイトルのコンテンツがアプリにすべて表示されます（現在の日付に対応する日付の場合）。

App Studio商品を作成するには、下記の手順に従ってください。

- 1 App Studioタイトルまたはコレクションを作成します（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成](#)」を参照してください）。ここで、発行するコンテンツの種類に対応するコンテンツの種類を作成します。
- 2 コンテンツの種類に対応する、iOSのアプリ内での購入または購読を作成します。詳細は、「[アプリ内での購入の設定](#)」を参照してください。
- 3 App Studio Publishing Portal (<http://appstudio.quark.com>) の、**アプリの仕様を管理**で、**入力**をクリックして、コンテンツの発行の対象とするアプリを選択します。
- 4 **このアプリの商品**の、**商品を追加**をクリックします。**商品作成画面**が表示されます。
- 5 **タイトルまたはコレクション**ドロップダウンメニューから、対象のタイトルまたはコレクションを選択します。
- 6 **商品の種類**ドロップダウンメニューから、対象のオプションを選択します。
  - 書籍などの、単独のコンテンツの場合は、**出版物**を選択します。
  - 雑誌などの、繰り返し発行するコンテンツの場合は、**購読**を選択します。
- 7 **商品名**フィールドに商品の名前を入力します。この名前は、商品の具体的なコンテンツではなく、一般的な商品の説明にする必要があります（たとえば、「標準的な雑誌のコンテンツ」や「中間の価格帯の書籍」）。
- 8 出版物のみ：**デフォルトSKU**フィールドに、内部的に使用するSKUを入力します。この値は自由に設定できます。
- 9 出版物のみ：商品が無料の場合は、**Product is Free**をオンにします。または、**iOS SKU**フィールドに、アプリ内での購入または購読のSKUを入力します。
- 10 購読のみ：購読から特定のコンテンツの種類を除外するには、そのコンテンツの種類をオンにします。
- 11 購読のみ：**購読の詳細**をクリックして、**購読の詳細**ダイアログボックスを表示します。次に、下記の手順に従ってください。
  - **購読の頻度**ダイアログボックスから購読の頻度を選択します。
  - **共有秘密鍵**フィールドに共有秘密鍵を入力します（詳細は、「[自動継続型購読の設定](#)」を参照してください）。共有秘密鍵が見えるようにするには、**共有秘密鍵を表示**をオンにします。
  - 顧客が購読権を購入したらすぐに最新コンテンツをダウンロードできるようにするには、**最新コンテンツを含む**をオンにします（このボックスがオンになっていないと、Appleによってアプリが却下される場合があります）。

- **内部的なSKU**フィールドに、内部的に使用するSKUを入力します。この値は自由に設定できます。
- **iOS SKU**フィールドに購読のSKUを入力します。
- **OK**をクリックします。

12 **OK**をクリックします。

- ➡ 特定のアプリに関連付けられているコンテンツの種類のリストが、App Studioアプリ証明書ファイル内に保存されています。コンテンツをアプリ内で入手可能にするには、アプリを作成するときに、このアプリ証明書ファイルを使用する必要があります。アプリを作成した後にコンテンツの種類を追加する場合は、新しいアプリ証明書をダウンロードし、その証明書を使用して新しいバージョンのアプリを作成する必要があります。詳細は、「[App Studio Factoryでのアプリの作成](#)」を参照してください。

## App Studioアプリ証明書のダウンロード

App Studio FactoryでApp Studioアプリを作成する前に、App Studioアプリ証明書をダウンロードする必要があります。

- ➡ App Studioアプリ証明書をダウンロードする前に、App Studioパブリッシングポータルアカウントの作成（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルアカウントの作成](#)」を参照してください）、タイトルまたはコレクションの作成（詳細は、「[App Studioパブリッシングポータルでのタイトルまたはコレクションの作成](#)」を参照してください）、およびアプリの登録が必要です（詳細は、「[App Studioアプリの登録](#)」を参照してください）。

App Studioアプリ証明書をダウンロードするには、下記の手順に従ってください。

- 1 ウェブブラウザで、<http://appstudio.quark.com>に移動します。ログイン情報とパスワードを入力して、ポータルにログインします。ホームページが表示されます。
  - 2 **アプリの仕様**をクリックします。**アプリの仕様**ページが表示されます。
  - 3 左側にあるリストで、対象とするアプリの、アプリの仕様を選択します。
  - 4 **アプリ証明書のダウンロード**の横にあるアイコンをクリックします。アプリ証明書がデスクトップにダウンロードされます。
- ➡ Apple App Storeに申請する最終版のアプリを作成する前に、少なくとも1つのApp Studio作品をアプリ証明書とリンクする必要があります（詳細は、「[App Studio商品の作成](#)」を参照してください）。ただし、アプリ証明書をダウンロードするためにリンクする必要はありません。「プレーンな」アプリ証明書をダウンロードし、そのアプリ証明書を使用してApp Studio Factoryでアプリを開発できます。App Storeに申請する最終版のアプリを作成する準備ができてから、「プレーンな」アプリ証明書を、アップデートしたアプリ証明書と置き換えることができます。

# Appleへのアプリの申請

App Storeにアプリを申請する前に、「[App Studio作品の管理](#)」セクションでのすべての指示に従っていることを確認します。確認が完了したら、下記の手順に従ってください。

- 1 iOS Dev Centerで、iOSデベロッパーアカウントにログインします。
- 2 右側にあるサイドバーで、**iTunes Connect**をクリックします。iTunes Connectの画面が表示されます。
- 3 **Manage Your Applications (アプリケーションの管理)** をクリックします。**Manage Your Apps (アプリの管理)** 画面が表示されます。
- 4 アプリのアイコンをクリックします。アプリの説明の画面が表示されます。
- 5 必要な変更を行います。**Uploads (アップロード)** 領域で、最終版のスクリーンショットをアップロードします (iPadでスクリーンショットを取得するには、ホームボタンを押しながら、電源ボタンを1回押します。スクリーンショットは写真アプリ内にあります)。
- ➡ コンテンツに課金する場合、アプリ内での購入をアプリと関連付ける必要があります。このためには、**In-App Purchases (アプリ内での購入)** 領域で**Edit (編集)** をクリックして、アプリと関連付けるアプリ内での購入をすべてオンにしてから**Save (保存)** をクリックします。
- 6 完了したら、**Save (保存)** をクリックします。
- 7 Finderで、[\[ドライブ\]/Developer/Applications/Utilities](#)に移動して、**Application Loader (アプリケーションローダー)** をダブルクリックします。
- 8 画面の指示に従います。**Choose an application (アプリケーションの選択)** 画面が表示されたら、アプリの名前を選択します。
- 9 **Application Information (アプリケーション情報)** 画面が表示されたら、**Choose (選択)** をクリックして、App Studio Factoryから書き出した.ipaファイルを選択して、**Open (開く)** をクリックします。
- 10 画面の指示に従います。アプリに暗号を含むかどうか聞かれた場合は、**No (いいえ)** をクリックします。

アプリの申請が正常に終了すると、Appleでアプリの審査が行なわれ、アプリが承認されたときに通知されます。

# 法律上の注記

© 1986-2022 Quark Software Inc. and its licensors. All rights reserved.

次の米国特許によって保護されています。5,541,991、5,907,704、6,005,560、6,052,514、6,081,262、6,633,666 B2、6,947,959 B1、6,940,518 B2、7,116,843、およびその他の出願中の特許。

Quark、Quarkロゴ、QuarkXPress、QuarkCopyDeskは、Quark Software Inc.とQuark関連会社の米国およびその他の各国における商標または登録商標です。その他のすべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

当ソフトウェアアプリケーションまたはユーザーのドキュメントに表示されるPantone® Colorの表示は、PANTONE標準色とは合致しない場合があります。正確な色については最新のPANTONE色見本帳を利用してください。PANTONE®およびその他のPantoneの商標は、PANTONE LLCが所有しています。© Pantone LLC 2010.

カラーデータおよび/またはソフトウェアの著作権は、Pantoneが所有しています。Quark Software Inc.はライセンスに基づき、Quarkソフトウェアとの併用に限定して配布を許可されています。Quarkソフトウェアによる作業の一部でないかぎり、PANTONEカラーデータおよび/またはソフトウェアをディスクまたはメモリに複製することは禁じられています。



# 索引

.zavemファイル 47  
.zaveファイル 11, 47

## A

App Studio Factory 13, 52  
App Studioアセット 43  
App Studioアプリ 7  
App Studioパレット 16  
App Studio作品 7  
Apple 12  
Apple App Store 76  
Apple iOSデベロッパアカウント 54  
AVE-Doc 8, 16  
AVE-Mag 8, 15, 42

## B

Blioアセット 43

## H

HTMLコンテンツ 31

## I

iOS Simulator 49, 65  
iOS開発証明書 55  
iPadアプリ 52  
ipaファイル 65

## P

PDFコンテンツ 31

## U

UDID 54, 55

## W

Windows 48, 52